

# にちぎん

2014 NO.38

夏



インタビュー 扉を開く

**眞鍋政義** 全日本女子バレーボールチーム監督

常識の壁を打ち抜く力——全日本女子バレー、データを越えた人間力

地域の底力

**仙北市** 秋田県

優れた舞台芸術を要に地域とともに歩む劇団「わらび座」

エッセイ “おかね”を語る

無い金は遣わない 漫画家 里中満智子

特別記事

中国のシャドーバンキング

トピックス

金融高度化セミナー(M&A・事業承継支援等)ほか

お金ほど便利なものはない。大昔はモノとモノの交換が売買の基本だったが、それでは何かと不都合も起きる。社会の拡大につれ、普遍的な価値のあるモノを物品と交換する必要に迫られたのだろう。お金は素晴らしい発明品だ、と感心する。しかし定着までには様々な紆余曲折があった。

我が国でも飛鳥時代に「富本銭」が、さらに平城京遷都に際して「和同開珎」が発行されたが、民は中々「銭」を信用しようとしなかった。銭を流通させて社会経済活動を活性化するために政府がとった策は「銭で身分が得られる」という荒技だった。それなりに効果はあったようだが、「銭」への信頼は（そして「執着」も……）徐々に増していったようだ。

「お金」は実に公平な存在だ。原価とは関係なく額面はだれにも等しく保証されている。一万円は一万円分のもので交換出来る。と誰もが信じている。社会情勢によってその「一万円分の価値」は変動するが、「一万円」という絶対的な価値は変わらない。だからこそ、野放図に紙幣は発行できないし、してはいけないのだ。国家も個人もちゃんとしたお金の遣い方ができなければ大人とは言えない。



絵・江口修平

## 無い金は遣わない

里中満智子

高校生でプロのマンガ家としてデビューして原稿料が入ってくるようになった。私にとって（アルバイトを除いて）初めて手にした私有財産は新人賞の賞金一〇万円。昭和三十九年当時としては大きな金額だった。受け取った際に「源泉所得税」が差し引かれていることを知り、「収入イコール資産」と思っただけで「浮かれてはいけない」と自分に言い聞かせた。言い聞かせ続けて今に至る。

欲しいものは当然山のようにあるが、「無い金」では買わない。持ってもいない金があるかのように遣うのは恐ろしいと、私は思っている。自分自身の安心のためにも常に持っている金の範囲内でものを買ってきた。

だから私は不動産を買う時でもローンは組まずにその都度すべてキャッシュで手に入れてきた。人には色々考え方もあるし、ローンを組む人の言い分も分かるが、私は気が小さいのでローンなど組んだら「もし万一の事があつたら払えなくなるかも」と不安でいたたまれなくなるだろう。小心ゆえに借金知らずで生きてきて、そのおかげと言っただけだが、いつ死んでも金のことでは誰にも迷惑をかけないで済む。金以外の事は、死んでみなくては分からないが……。

さとなか・まちこ●マンガ家。1948年大阪生まれ。1964年（高校2年生）に「ピアの肖像」で第1回講談社新人漫画賞受賞。代表作に「あした輝く」「アリエスの乙女たち」「海のオーロラ」「あすなる坂」「狩人の星座」「天上の虹」など多数。2006年に全作品及び文化活動に対し文部科学大臣賞受賞。2010年文化庁長官表彰受賞、2013年度「マンガ古典文学 古事記」古事記出版大賞太安万侶賞受賞。公益社団法人日本漫画家協会常務理事／マンガジャパン代表／NPO アジア MANGA サミット運営本部代表／大阪芸術大学キャラクター造形学科学科長など。





2 エッセイ／“おかね”を語る  
無い金は遣わない 漫画家 里中満智子



4 インタビュー／扉を開く  
常識の壁を打ち抜く力——全日本女子バレー、データを越えた人間力  
全日本女子バレーボールチーム監督 眞鍋政義



9 地域の底力——秋田県仙北市  
優れた舞台芸術を要に  
地域とともに歩む劇団「わらび座」

16 日本銀行の支店建物 [8]  
日本銀行福島支店旧店舗 日本銀行文書局技師 中村茂樹

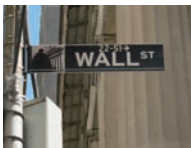
20 FOCUS → BOJ ① 日本銀行が全面支援する「金融広報中央委員会」  
お金の知恵を広めて  
「生きる力」「自立する力」を高める

日本銀行のレポートから

24 「経済・物価情勢の展望」(展望レポート) —2014年4月—  
28 「金融システムレポート」—2014年4月—

32 特別記事  
中国のシャドーバンキング 日本銀行北京事務所

36 トピックス  
金融高度化セミナー(M&A・事業承継支援等) ほか



39 AIR MAIL from New York  
設立100周年を迎えた米国の中央銀行

表紙のことは



表紙・画 北村公司

日本銀行開業からわずか二カ月後の明治十五年(一八八二)十二月、大阪支店は、日本銀行の初めての支店として開設されました。二度の移転を経て、明治三十六年(一九〇三)から、現在の大阪市中之島に居を構えています。

今回表紙に掲載した現店舗は、大阪のメインストリート御堂筋に面し、大阪市役所と向かい合う旧館とその後方にそびえる新館からなっています。新館建設と明治期に建てられた旧館の復元・改築工事を経て、昭和五十七年(一九八二)に現在の姿となりました。

新館の外壁はポルトガル産花崗石貼り、火災磨き仕上げ(注)。旧館との調和を重んじて、屋根や窓周りには旧館と同様の銅板を用いたり、旧館側の窓に反射ガラスを使用し、ドーム屋根が美しく映えるような工夫をしています。

その景観維持の取り組みが評価され、昭和五十八年(一九八三)に「第三回大阪都市景観建築賞」を受賞しています。

支店の周囲には川沿いに遊歩道が整備され、土佐堀川・堂島川の川面を眺めながら散策を楽しむ市民に親しまれています。

(注) 切削した石材の表面の結晶を強い火炎で焼き飛ばし、粗い凸凹にする仕上げ加工。



# 眞鍋政義

Masayoshi Manabe

全日本女子バレーボールチーム監督

一九六〇年代、日本の女子バレーチームは「東洋の魔女」と呼ばれ黄金時代が続いたが、銅メダルを獲得した八四年のロス五輪を最後に、立ちどころ世界の世界の壁に長く低迷した。その女子バレーを見事復活させ、再びメダルに導いた眞鍋政義監督。「長身の選手でない」と世界では戦えない——そんな「常識」の壁を破った、眞鍋流の戦略と指導方法。スポーツの世界にとどまらず、日本の社会経済の復活にも勇気を与える。

# 常識の壁を打ち抜く力

## 全日本女子バレー、データを超えた人間力

### 非常識の戦略で世界に挑む

——二〇一二年、ロンドン五輪で日本女子バレーを二八年ぶりとなる悲願のメダルに導いた眞鍋監督ですが、監督は、どのようなきっかけでバレーを始められたのでしょうか。

**眞鍋** 実は、子どもの頃の夢は、プロ野球選手でした。当時は、王貞治さん、長嶋茂雄さんがスーパースターだったんです。中学に入ってすぐ野球部に入部。サードやファースト、ピッチャーを希望していたんですが、監督から「体が大きいからキャッチャーをしろ」と命じられて。それが嫌でやめようと思っていたら、バレー部の監督から誘われて、バレーボール人生が始まりました。中学三年

間、本当によく練習しました。そのかいあって、全国大会に出て、高校、大学とバレーボールの名門校に進学しました。実業団では新日鐵に入社し、全日本チームにも選ばれました。

——その後〇八年には、公募に手を挙げ、〇九年に全日本女子の監督となりました。そのときは、どんな思いだったのでしょうか。  
**眞鍋** とにかく「もう一回オリンピックで世界に挑戦したい」という思いでした。現役のときに目の丸をつけて十数年プレーさせてもらい、ワールドカップも世界選手権も三回出場しましたが、オリンピック出場はソウル（八八年）の一回だけ。九六年のアトランタ五

輪は、最終予選で負けて、出場できませんでした。自分がチーム最年長であっただけにその責任を強く感じました。以後、全日本男子チームは三回連続でオリンピックに出場できず、悔しい気持ちをずっと持っていたんです。

——監督に就任された時点で、明確な目標と戦略はあったのですか。

**眞鍋** まず行ったのは現状把握です。現状把握が正確でないと、目標設定が狂ってきますから。監督就任直前の北京五輪（〇八年）の出場一二チームすべてのデータを集め、日本女子は今の辺にいます。のかを冷静に分析しました。そして、いろいろ検証した結果、最初に選手に言ったのは「次のロンドン五輪でメダルを獲ろう」という明確な目標でした。

ところが、そのあと、当時日本バレーボール協会名誉会長だった松平康隆さん（注）にその目標を伝えたら、「ふざけるな。そんなに簡単に獲れるわけないだろう」と怒られました。それはそうですよね。八四年以来、ずっとメダルを獲っていなかったのですから。ただ、そのとき松平さんから、「非常識を常識にする戦略や練習を生み出せたら、可能性はある」と言われました。これはどういう意味だろう、と一カ月ほど悩みました。

女子バレーのネットの高さは、二二四センチ。やはり、身長が高い、腕が長い、パワーがあるチームが有利です。しかし、強豪国のような一九〇センチ以上の選手は、日本中探しましたがいません。どうしたらいいのか……。

ある日、パッと気付いたんです。サッカーやバスケットは相手のゴールにボールを入れれば勝ち。バレーは、そうしたゴールはありません。相手のコートにボールを落とせば点数が入ります。逆にい

（注）一九三〇～二〇一二年日本の元バレーボール全日本選手、元バレーボール全日本男子チーム監督、日本バレーボール協会会長などを歴任。会長時には、将来のプロ化を前提としたVリーグの発足や国際大会の日本での開催に尽力。二〇〇四年に旭日中綬章受章。



まなべ・まさよし ● 1963年生まれ。兵庫県姫路市出身。大阪商業大学卒業後、86年、新日本製鐵に入社。88年のソウル五輪をはじめ多くの国際大会で活躍。89年のワールドカップではベスト・セッター賞を受賞。99年、イタリア・セリエAのイベコ・パレルモに移籍。2005年、現役引退。久光製薬スプリングスの監督を経て、09年に全日本女子代表監督に就任。10年の世界選手権では3位となり、同大会32年ぶりとなるメダルを獲得。12年ロンドンオリンピックでは28年ぶりの銅メダルに導いた。著書に、『逆転発想の勝利学』（実業之日本社）『精密力』（主婦の友社）、などがある。

えば、自分のコートにボールが落ちなければ点は入らない。

——落とさなければ良いと。

**眞鍋** そう、逆転の発想です。背の高い選手がいなくてもできる。ディフェンスを世界一にすればいい。具体的には、サーブと、サーブレシーブ、ディグ（スパイクレシーブ）、これらの三つのプレーを世界一にし、ミスもなからず。この四つを目標として掲げました。特に、ディグ練習が一番しんどいのですが、選手もスタッフも「この戦略しかない」と理解して、厳しい練習を続けました。

——日本人の優位性を考えたバレーボールですね。

**眞鍋** そうですね。スパイクやブロックは五番手、六番手でもいい。でも、日本のお家芸のレシーブと、誰にも邪魔されないサーブを世界一にすれば結果が見えてくるはずだと。

——見事、一二年のロンドン五輪では銅メダルを獲得しました。

**眞鍋** ロンドン五輪はディグだけ一位でしたが、銅メダルを獲得しました。世界一がひとつでもメダルを獲得できることは証明しました。四つの目標のうち二つでも三つでも世界一になれば、今まで以上の成績がついてくるものと信じています。

——ところで、拾うバレーを徹

底するにしても、スパイクやブロックで太刀打ちできなければ厳しいと思います。高さやパワーを追求するグロバールなバレーにどう対応されてきたのでしょうか。

**眞鍋** 世界の女子選手よりも背の高い男子選手を呼んで、彼らを相手にスパイクやブロックの練習をしています。その高さやパワーに慣れると、試合では練習の時よりブロックが低いですからプレッシャーがかかりません。

ディフェンスも同様です。毎日男子選手が思い切り打つんです。女子は、最初ますよけられません。顔面にも当たりますから、鼻血も出るし、全身あざだらけになります。ドクター、トレーナーに待機してもらいながらの練習です。

でも、運動神経のいい選手は一月月くらい、ほかの選手も、二、三カ月くらいで目が慣れてきて、レシーブのボールが上がり始めるんです。こうなればしめたもの。試合のときに強豪国が思い切り打ってきて、男子の半分くらいのスピードにしか感じません。

こういった練習は、試合結果の綿密な分析をもとに行っています。

す。僕一人ではできないので、ブロック、サーブ、ディフェンスと戦術・戦略それぞれ分野ごとに担当コーチを決め、その分野の指導は任せています。分業制は野球でこそ当たり前ですが、女子バレーでは初めてでした。

従来のコーチは、練習中ただボールを打ちまくる、悪く言うと、監督のロボットのようなものでした。でも、ロボットでは、監督や選手の「勝ちたい」という気持ちと同じ温度にはなりません。責任がないからです。それで分業に当たって、責任も分担してもらおうことにしました。

バレーボールは試合が終わる度に数字が出てきます。スパイク成功率何%、ディフェンス成功率何%と。そこで早速反省会です。今日レシーブが悪かったので、練習方法を変えてはどうか、等々。コーチ陣は自分の分野に必死です。うまくいってほめると、コーチのモチベーションも上がり、僕と一緒に温度になります。そうやってみんなの力を借りていくことがチームの力として非常に大きいですね。

## データは活用するが、 最後は目に見えないものが勝負を分ける

——真鍋監督といえ、IDバレーで有名ですね。

真鍋 実は、データバレーは世界のどのチームもやっていることで目新しいことではないですし、私も現役時代から細かくデータ分析していました。女子に取り入れたのは、久光製薬スプリングスの監督に就任した時です。当初、何人かの選手に個人練習をしたところ、選手から「あの選手には八分、自分には五分だけとは、不公平」との声が上がってきました。こうした嫉妬を解消する方法はないか、あれこれ考えて、結局、アナリストが毎日入力している練習データを活用することになりました。練習結果のデータを毎日出し、朝、張り出す。試合に起用するのにも、この数字のいい選手から。これで選手に納得感が出てきました。

真鍋 全日本女子監督として二年目の一〇年、世界選手権で、三二年ぶりに銅メダルを獲得しました。そこから選手たちは本当に変わりました。「もしかしたら真鍋の言うことを聞けば、本当にロンドン五輪でメダルを獲れるかもしれない」と思ったようです。それから毎日練習後に、選手自らデータをチェックし、アナリストに「自分の映像が見たい」と頼んだり、コーチに「私、今日どうでした？」と聞いたり、主体的に動くようになりました。

——試合中もタブレット端末を持っていらつしゃいますが、データはリアルタイムで動いているんですか。

真鍋 動いています。アナリストが後ろで入力していますから、プレー一つごとに数字がババツと変わります。全日本女子は他国と比べて、内容が特に詳細です。サブは右か左かだけでなく、右前か右後ろか、そのボールはどこに

返ったか、細かな位置情報なども含め、すべてが入っています。

——スタッフの方の扱うデータ量は膨大になると思いますが、そこから得られた分析結果や戦術をどうやって選手に浸透させているのでしょうか。

真鍋 「選手に伝えるときは簡潔にわかりやすく」、これがテーマです。たとえば、バレーの試合期間中は、試合後のスタッフミーティングは深夜三時、四時まで及びます。そこで練り上げた戦術を選手に伝えるわけですが、「ここはこれだけ考えればよい。違ったときは他の選手がカバーする」、こんな風にシンプルに伝えるようにしています。

にしています。

ただし、人間が行うスポーツですから、データではとらえ切れない部分がたくさんあります。たとえば、ある選手のスパイク決定率が二〇%まで落ちたとします。でも、この選手は後半V字回復するの、落ちたままか、数字だけではわからない。それは、日々一緒に練習しているチームだからこそわかることです。

——最後は人間力ということでしょうか。

真鍋 はい、データは有効活用していますが、最後はやはりハートが強いほうが勝つと思っています。

## 「間」が生む「マイナス思考」 間を埋める工夫を

——ところで、バレーボールは国民的スポーツになつていきます。その魅力はなんでしょうか。

真鍋 ルールがシンプルで、見ている方々にもわかりやすいこと。さらに、バレーは、ボールを持つて考えることができないこと。バ

スケッチもサッカーもボールを持つて考えられますよね。バレーではプレー中にボールを持つと原則です。だから、瞬時に判断し、相手の気持ちになって、愛情をこめてパスしなければならぬ。もし一人目が失敗したら、二人目が



カバーする。二人目が失敗したら、最後、スパイカーがみんなの気持ちをくみとって打つ。あとの五人はブロックで返ってきたボールをフォローする。助け合いのスポーツなんです。

——「相手の気持ちになってパスをつなぐ」とのことですが、監督は選手の心の動きをきめ細かく把握されており、「心理学者」ともいわれていますね。

眞鍋 現役時代は、セッターとして、スパイカーがどんなボールを待っているのか、心理や癖などをずっと研究していました。それが役立つかもしれません。今も選手たちの性格は把握している

自信があります。

たとえば、僕は練習中ほとんど怒らないのですが、長時間練習していると選手の集中力が欠けてくることがあります。そのときは、ある選手だけ怒るんです。本人はB型で（笑）怒られても意に介さない性格ですが、それを見た他の選手はピリッと引き締まります。そういう性格だと分かって怒っています。もちろん、後からフォローもしますが（笑）。

——メンタルの強い人材をつくる秘訣を教えてください。

眞鍋 メンタルの強さは、スポーツには本当に重要です。特にバレーのような「間」があるスポーツは、メンタルの状態によって勝負の行方が大きく変わります。たとえば、窮地の状況にサーブが廻ってきたとき、サーブ前の「間」で、少しでも「失敗したら、どうしよう」と思ったらいいサーブは打てません。反対に「やった、この状態でサーブが回ってくる私はラッキーガールだ」と思えば力を発揮できる。やっぱり、最終的にプラス思考が勝つと思います。しかし、現実にはどうしてもマイ

ナス思考になりがちです。だから、過去のデータを活用し「ミスは三回までなら勝てる」と復唱したり、レシーブまでの「間」に「両手を合わせてフォームを確認する」など、選手たちは様々な工夫をして、マイナス思考が入り込む隙間を埋める努力をしています。

——今、女性の活用が社会全体で叫ばれています。リーダーの育成という点を含めどのようにお考えですか。

眞鍋 女性は信頼できる上司のためなら、すごい力を発揮します。逆に、信頼されていないければ何を言っても反応は「絶対無理！」はつきりしています。

講演などでそんな話をする時、「女性から信頼されるには、われわれ上司が目線を下げればいいんですよね？」という質問を受けます。が、「目線を下げる」というのは上から見ているということ。その時点で女性は心を開かないと思います。

僕は監督ですが、共通の目標に向かうチームメイトとしての同じ目線を大切にしています。先ほどの分業制の下、監督の最大の役割

は、選手やスタッフにやる気を起こさせるモチベーターの仕事です。練習後は、一対一やグループで、いろいろな話をしてコミュニケーションをとります。僕自身の失敗談も話して心をオープンにしていると、「あの選手は、少し心が開いたかもしれない」と思うことがあります。でも、次の日はクローズしている。その繰り返しも多いですが（笑）。

それからリーダーという意味では、男女に余り差はないと思います。「情熱を持って世界観を語る」、そして「言行を一致させる」、これに尽きると思います。

——最後に、一六年のリオ五輪、二〇年の東京五輪を見据えた、今後の抱負をお聞かせください。

眞鍋 今年九月に世界選手権があります。まずそこで、前回の三位以上の成績をおさめたい。世界と同じことをしても勝てません。だから、固定観念を払拭して、さらに、いろいろな観点から新しい発想を得て、日本オリジナルのプレーをしていきたいと思っています。——「健闘を祈念しております。」

（聞き手／情報サービス局長・丹治芳樹）



地域の底力

仙北市



秋田県仙北市 せんぼく  
優れた舞台芸術を要に  
地域とともに歩む  
劇団「わらび座」

武家屋敷を桜が彩る角館や かくのたて  
日本一深い湖・田沢湖を有する秋田県仙北市。  
この地に根づいた劇団「わらび座」は、  
うよきくせつ 紆余曲折を経て活動を多角的に広げ、  
今日も世代を超えた感動を発信している。  
舞台芸術を核にした取り組みは、  
地域の伝統文化や観光とも結びつき、  
未来に向かって着実に歩んでいく。

## 東北の地で紡がれてきた 知る人ぞ知る感動の舞台

「未来よ、やってこい！」

ミュージカル「げんないー直武  
を育てた男」の最後、出演者が  
舞台上に勢ぞろいした力強い歌声を  
聴きながら、熱いものがこみあげ  
てきて視界がにじんだ。

夢を抱き天才平賀源内のもとに  
集まった人々を描いた物語だ。時  
代の波にのまれ、挫折を経てもな  
お、彼らは未来を思う。秋田県東部  
岩手県に隣接する仙北市に拠点を  
置く劇団「わらび座」が営む「わ  
らび劇場」でのひとこまた。

客席の多くを修学旅行の中学生  
が占めていたがゆえ、当初は教訓

客席数 710 席の「わらび劇場」。ステージ後はすべての  
役者が出入り口にそろって、観客を見送るのが恒例だ。



めいた内容を想像していた。果た  
して、ユーモアを巧みに交えた展  
開と、工夫を凝らした舞台のつく  
りは圧巻。役者たちが放つ熱気に  
も、力強く心をゆさぶられた。

脚本、演出は、市川猿之助氏の  
スーパー歌舞伎「新・三国志」を

はじめ、数々の話題作を手がけて  
きた横内謙介氏。ほか、日本屈指  
のスタッフが裏方を支え、地元  
出身の若い才能が輝く一級品の  
ミュージカルが、東北の一角で待  
ち受けているのだ。

終演後、平賀源内役の三重野葵



平賀源内役の三重野葵氏（右）は、親子二代でわらび座の劇  
団員に。母親が舞台上立つ姿を見て役者の道に進もうと決  
意した。小田野直武役の鈴木裕樹氏（左）は、隣接する秋田  
県大仙市出身。「直武は地元の誇り。しっかり演じたい」と。



氏は、汗も  
まだひかな  
いままに満  
面の笑顔を  
見せた。  
「舞台は  
一つのコ  
ミュニケー  
ションだと  
思っています。  
生の人

間が目の前で演じているのが、映  
画やテレビとは違う。一日として  
同じ日はないし、お客さまからは  
毎回違う反応があつて僕らも元氣  
づけられるんです」

杉田玄白氏「解体新書」の挿絵  
を描いた小田野直武役を務めたの  
は鈴木裕樹氏。直武は地元角館出  
身の秋田藩士で、平賀源内を頼つ  
て江戸で洋画を会得した。劇中の  
台詞は、秋田弁だ。

「ロビーでお客さまを見送る際  
僕の名前ではなく、「直武さん」と  
声をかけてくださる方が多くて、  
ここではやはり馴染みのある人な  
のだと実感しました。わらび座の  
存在を知りながら、劇場に来るま  
では至っていない方を、今回の  
ミュージカルで掘り起こしたいと  
思っています」

## 挫折が生んだ 多角経営への道

そもそも「わらび座」の歴史の  
始まりは、前身「海つばめ」が東  
京で創立された一九五一年に遡る。  
創設者の原太郎氏には、「民謡で戦  
後荒廃した日本人の心を癒やした



わらび座社長の小島克昭氏は北海道出身。役者として舞台上に立った後、わらび座養成所の指導者を経て、危機に直面していた劇団を建て直し、現在の体制を築き上げた。

い」との思いがあったという。二年後、民謡民舞が盛んな秋田県に拠点を移し、「わらび座」と改名した。七四年には、全国八〇〇万人からの募金をもとに「わらび劇場」が完成した。

現在の社員数二五〇名。動員数は、年間約二五万人。日本では「劇団四季」「宝塚歌劇団」に次ぐ規模を有し、地元のみならず国内各地や海外での公演で喝采を浴びてきたが、事業展開は劇団関連に限らない。温泉宿泊施設や地ビールの製造販売など、実に多岐にわたっているのが興味深い。

しかしながら、創立当初から今ある姿を目指していたわけではない。八三年から社長を務める小島

克昭氏が、その背景を振り返る。小島氏が社長就任時、劇団は存続の危機に直面していたという。

「財務問題で、倒産寸前の状態。さらには一五〇人ほどが辞める、わらび座にとつては歴史的な大事件が起きたんです。組織面でも課題がありました。創立者の原太郎は、戦争をくぐり抜けてきた人。精神性が高くカリスマ的な存在でしたから、劇団員は皆、頼り切った状況でした」

八八年には原氏が亡くなり、存続という使命を劇団員全員があらためて強く思う。

事態を乗り越えるためにまず、すべての人が同じ待遇の下で共同体生活を送るという草創期と同じ経営形態からの転換を図るなか、敷地内から温泉が出る幸運に恵まれた。その結果、地元住民との共生という劇団のテーマを貫くため、温泉施設と劇場を合わせて機能させる試みがなされる。もともとあった宿泊施設を改築し、九二年には「温泉ゆほぼ」がオープンした。

加えて翌年、アメリカ・オレゴン州アッシュランドへの「シェークスピア・フェスティバル」の視

察が、大いなる希望をもたらす。

「人口一万人のまちに三つの劇場があり、当時で約三六万人の集客（現在約五〇万人）があったんです。全米最大の地域劇場で、たとえ田舎でも、観光と劇場文化が結びつければ、産業として成り立つことを目の当たりにしたわけです。劇場を中心に地域活性化の発信母体となる芸術村をつくるう、との思いが生まれました」

創業四五周年を迎えた九六年には、伝統工芸体験施設や研究施設も含めた「たざわこ芸術村」が幕開け。翌年は秋田新幹線開業と合わせて、秋田県初の地ビール造りとレストランの営業が始まる。そして舞台そのものも、てこ入れが行われた。

「われわれは取材から創作、作曲、役者の育成、道具製作、営業活動まで一貫して作業をしてきた。その結果、自己完結型組織になっていったんですね。正直なところ、技術的にも芸術的にも次第に後れをとり、発展性を失っていた。ガラパゴス化していたわけです。ですから一番最初に考えたのは、外部の血を入れるということでした」

皮切りとして、宝塚歌劇団から演出家の大関弘政氏を招聘。ほか、脚本家のジエームス三木氏や舞台美術家の妹尾河童氏、朝倉撰氏をはじめ、舞台芸術の最前線を行く大御所が作品に関わり、新たな風を吹き込んだ。

「東京とはまた異なる、秋田発の独自の舞台を生み出そうとしているわらび座に力をかしたい、という先生方が多かったですね。日本の伝統に根差しつつ新しい芸術をつくる試みや、資金は潤沢ではないものの、夢を持っているのがおもしろいと思われたようです」

やがて劇場、温泉、レストラン



古い街並みに馴染むアンティークの着物を着付けてもらい、角館を散策する体験コースが観光客に人気。



地元育ちの門脇光浩仙北市長。「秋田県人は大らかで、芸術や文化を愛するラテン気質。わらび座を窓口にして、創造文化都市として全国に発信していく。少子高齢化でも、交流人口は増やせる」と朗らかに語る。

## 「わらび座」を要に 秋田県の玄関口は 世界へ

順調に復活を遂げてきたが、現状は芳しくない。大きな影響を受けたのは、東日本大震災だ。秋田県は実質的な被害こそ少なかった

と多様に楽しめる「たざわこ芸術村」は地元民が集う憩いの場になり、地域の雇用にもつながった。角館駅から車で10分の利便性や道路事情の進歩も幸いし、他県からも観光客が訪れるように。

「地域興しは、若者、ばか者、よそ者がやるとよくいわれますが、われわれは少なくともよそ者であり、ばか者であり、かつては若者でもありました(笑)」

ものの、風評で観光客が激減。田沢湖や武家屋敷、桜祭りや賑わう角館という県内有数の観光地がある仙北市も、かつては年間六〇〇万人あつた観光客が五〇〇万人台にとどまったまま。

また仙北市を含め秋田県は、人口減少率と高齢化率、さらには出生率の低さで全国一位。「少子高齢化の先進県」ともいわれる。一方で一二年には「文化庁長官表彰(文化芸術創造都市部門)」を仙北市が受賞し、文化芸術の活用により地域振興で成果をあげたことが評価された。

そんなわらび座とともにある仙北市の「今」について、門脇光浩市長に話を伺った。仙北市は〇五年に田沢湖町、角館町、西木村が合併して誕生。わらび座の拠点は旧田沢湖町だったが、合併による利点はあつたのだろうか。

「わらび座に限られた地域だけの存在ではないという考え方を広めるには、とてもいい機会でした。仙北市の中心的な企業、あるいは文化として、合併したからこそできることがあると思っています」  
仙北市とわらび座との連携によ

る構想のひとつが、芸術大学の設立だ。音楽を含め、舞台芸術の基盤はできている。手間暇かけて収集されてきた各地の民謡舞踊の集積は、全国的に見ても貴重な財産だ。

さらに国際交流のネットワークも広げたいと、門脇氏は話す。

「ゼロから始めたら百年かかりますが、わらび座のおかげで、既に世界に向けて扉が開いている。多くのお客さまが、国内外からおも



秋田新幹線「こまち」で東京から角館まで約3時間。駅から「たざわこ芸術村」までは、シャトルバスが運行されている。



わらび座劇団員の指導のもとで踊りを稽古する修学旅行の生徒たち。ミュージカルをみた後は、おのずと感情を解放して踊れるようになる。



しろい情報をもって訪れてくれる。わらび座を介して視野が広がった人たちが、いっぱいいるわけです」  
仙北市の人口は現在三万人を切ったが、少子高齢化の取り組みも進んでいる。その一環が、地元金融機関との協力体制だ。

「子育て世帯の住宅のリフォームや新築には、利率を下げたローン商品を提供してもらいました。ほかの地域にも広まりつつありますが、なぜ仙北市が発端になったかという点、秋田県の東の玄関口だから。秋田新幹線で一番先におりるのは田沢湖駅、もしくは角館駅。仙北市民が暗い顔をしていては「秋田県はいいね」と思っていただけ

ない。僕らにはそういう責任があるんです」  
 定住者ももちろん大事だが、年間五〇〇万人の観光客、すなわち交流人口にはまた別の将来の広がりがあると、門脇氏は未来に期待を寄せる。その実例が、わらび座が七〇年代後半から手がけてきた、わらび座の舞台鑑賞、俳優が指導する舞踊体験と農業体験（農家民



藤井氏は1996年に、大人の一一般客も利用できる農家民泊施設「泰山堂」を自宅の敷地内にオープンさせた。海外からの留学生も、滞在を楽しんで帰るとい



秋田花まるっグリーン・ツーリズム推進協議会理事長の藤井けい子氏は各地の講演に赴き、農家民泊の魅力や自らが体験した感動を語っている。

泊・日帰り)をセットにした修学旅行だ。  
 NPO秋田花まるっグリーン・ツーリズム推進協議会理事長を務める藤井けい子氏は、子どもたちの農業体験を初めて受け入れたときの記憶が忘れがたいという。  
 「家が大きすぎるとびっくりしたらしく、そこから探検してしましたね。私が一番驚いたのが、白いご飯を食べて何で味付けしたのかと聞かれたことですね。自分たちが普通に食べていたものを何でも美味しいと褒めてくれました。農家の嫁つて褒めてもらえる存在ではありませんでしたから、初めて褒めてもらい、意欲がわきました。もう子どもたちがかわいかったで

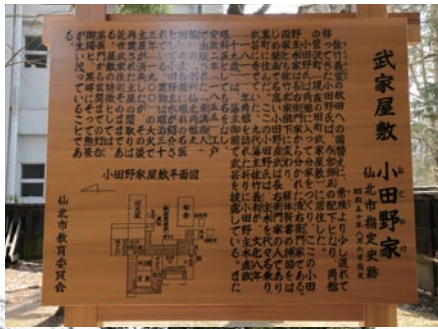


すね」  
 わらび座に泊まっている子どもたちは、朝各農家に五人くらいずつ分散して、農作業に奮闘し、夕食まで農家の家族とすごすのである。「秋田の父さん、母さん」への思いが胸に深く刻まれ、後に再訪することも珍しくない。  
 「毎年子どもたちとの交流から生まれた感動で学び得たものは大きく、私たち農家の道標ともなっています。三〇年以上も体験は続いていますが、同じ感動は二度と無く、いつも新鮮ですね。  
 だから長続きして、来てくれる学校も多くなり、受け入れる農家



武家屋敷の一角では、イタヤカエデの若木の幹を帯状に裂いて、これを編む伝統工芸品「イタヤ細工」の実演販売も行われる。

も多くなってきたと思います。農作業をし、達成感を知り、食を通じて感謝を感じ、心の交流が深まっていくんですね。グリーン・ツーリズムは、収益を積むものではなく感動の積み重ねで豊かになっていくのではないかな」  
 これまで受け入れを体験した農家は、延べ七〇〇軒。組織だった受け入れ体制があるわけではなく、わらび座を中心にごく自然に継続



「武家屋敷通り」には、かつての中・下級武士の侍屋敷である旧家が当時のままの姿に建ち並び、いずれも内部を見学できる。



しているのが面白い。

農業体験や農家民泊は、仙北市のみならず、県内全域に根づきはじめているようだ。秋田県はもとも、米や秋田杉、金銀銅、石油など資源が豊富。恵まれた環境が生んだ「ラテン系」ともいわれる天真らんまんな気質が、子どもたちを大らかに受け入れるのだろうか。

## 感動が新たな未来をつくりだす

芸術作品としてのクオリティを高めながら、多角化で劇団経営

を安定化させてきたわらび座だが、将来への布石についてはどうだろうか。

わらび座への愛情と今後の課題について語るのは、長年にわたり応援し続けてきた安藤醸造の安藤大輔氏。安藤醸造は創業一八五三年（嘉永六年）以来続く、老舗の味噌醤油蔵だ。

「あの舞台に感動しない人はいないでしょう。価値の高い舞台はどんな人が見ても感動するものです。それをこの町から発信できているのは地元の誇りです」

わらび座がこの地に根づいた背景として、江戸時代に角館を治め



わらび座の活動を長年見守ってきた安藤醸造代表取締役の安藤大輔氏。舞台の話になると、自然と顔がほころぶ。

ていた佐竹北家（秋田藩佐竹家の分家）の影響もあるのではないかと、安藤氏は話す。京都の公家から養子を迎えた佐竹北家は、雅やかな文化を育んできた。

「桜も武家屋敷もわれわれのような店も、佐竹北家の連綿と続く公家文化の中で生まれてきた。わらび座も、根っこが同じところに花開いているのだと思います」

役者と観客が作り上げる舞台ならではの迫力はテレビとは全く違うものだ。しかし、日本では劇場に足を運ぶ人はなかなかいない。

安藤氏は舞台芸術に興味をもつのは一部の人という現状を変えたいと、友人知人を舞台に誘っては裾野の拡大に努めているという。一

度舞台をみた人の多くは、わらび座のファンになるからだ。さらに気に掛けているのは、わらび座の多角経営のその先だ。

「幅広く成長した分、跡を継いで維持する人を早くつくらないと大変だと思っています。民俗芸能の基地としての存在と経営の双方を理解しながら、トータルで見なくてはなりませんから。今が大きな曲がり角です」

わらび座を未来に継ぐ。次世代が担わなければならない大きな課題だが、曲がり角が上向きになり、プラスになる可能性もあると安藤氏は期待する。

次世代への橋渡し役として、転換期の一翼を担うのが、一四年二

「人間に役立ちそうなことは何でもやってみる姿勢がわらび座の魅力」と話すのは、わらび劇場支配人の山川龍巳氏。



年前のことだ。

当初ショッピングモールの集客装置として劇場をつくりたいと考えていた宮内氏だったが、わらび座のステージに心を動かされ、その考えを一八〇度変えた。

「純粋なビジネスというより、感動を大勢の人と共有したい、劇場はそのための器だと。自分たちが戦後作るうと思つた社会にするために、この事業に金を出さないわけにいかん、とお考えでした」（山川氏）

月に「わらび劇場」支配人に就任した山川龍巳氏だ。長崎県出身の山川氏は、一八歳のとき、たまたま知人に誘われて見たわらび座の公演で人生が変わった。

「泣いてしまつたんです。ステージの劇団員がきらきらと光って、充実感にあふれていた。この人たちと生きられたら、人生の意味がわかるかもしれないと思いました」

親に反対されつつ秋田に移り住んで役者を目指した後、三三歳から全国公演のセンター長として経営に携わるように。そんな山川氏に、愛媛県で様々な事業を営む宮内政三氏から、劇場をつくりたいという話がちこまれたのは一〇

力し、学生たちの観劇料や劇場までの足代を補助するため年間一八〇〇万円ほど資金が集まった。

「坊っちゃん劇場」は、新たな地域拠点劇場として集客を増やしている。

愛媛県のサポートシステムは、秋田でもはじまり、今年度は約一万人の学生を対象に支援が行われるという相乗効果を生んだ。さらに仙北市に戻つた山川氏は、愛媛県で培われたノウハウと政財界との人脈をもとに動き出す。まずは「秋田市のど真ん中で出張公演ができないか」という提案に、県側も興味を示しているという。

「わらび座は文化芸術界で注目の

的のひとつ。成長すればビジネスモデルになるかもしれないという、期待をもつ人も多いんです」

これまで舞台芸術に縁がなかったものの、わらび座の舞台に魅せられた政財界の人々は少なくない。山川氏の話をついて、「舞台は一つのコミュニケーション」という三重野氏の言葉とともに、平賀源内の台詞が胸に蘇る。

「未来は変えることができる」明日のことは、誰も予測できない。しかしながらわらび座の舞台は仙北市の、そして観客の未来を変える力を秘めているのではないか。そんな明るい思いがふくらんできた。

「芝居はしょせん作りごと」というような声も聞きつつ、粘り強く協力を求めて歩く。やがて、愛媛県の政財界の理解が得られるようになった。

「次世代教育を劇場文化で徹底的にやってみようと、舞台芸術体験サポートシステムを実現してくれました。舞台芸術は子どもたちにとって、とてつもない力がありますから」

愛媛県内の経済界と教育界が協



# 日本銀行福島支店旧店舗

中村茂樹 日本銀行文書局技師

明治三十二年（一八九九）、日本銀行は、東北地方初の拠点として福島市に出張所を設置しました。その後、福島出張所は支店に昇格します。福島支店開業時の店舗は、七〇年間にわたり地元から親しまれたベージュ色の明治洋風建築でした。第八回は、そんな福島支店の旧店舗を紹介します。

## 福島出張所の開設

江戸期より全国有数の生糸産地として栄えた福島は、明治期には、生糸の輸出がさかんとなったことに伴い、生糸の集散地、東北部の金融の中心地として更に発展します。

また、明治二十年（一八八七）十二



写真1 初代福島出張所



写真2 同口ビエ風景

月に日本鉄道（現東北本線・上野〜仙台）の開通により福島駅が開業し、明治三十二年（一八九九）五月には奥羽本線（福島〜米沢）が開通しました。これにより、東北・奥羽二大路線の分岐点となる福島は、東京と東北地方を結ぶ重要な拠点となり、商取引がますます活発に行われるようになります。その中で、生糸業者を中心とする地元からの強い要望を背景に、明治三十二年（一八九九）七月に、福島出張所を開設することになります。全国で七番目、東北地方では最初の拠点開設です。

出張所開設当日は、「一〇五万円の現金が運ばれてくる」ということで、駅前通りは時ならぬ緊張感がみなぎ

り、興奮した人垣の中を、赤い旗を立てた十数台の馬車に積まれた現金箱が、物々しい警戒のうちに出張所に運び込まれたといえます。当時、米一升が一二銭でした。

また、地元有力者は「これで福島は名実ともに全国七位の経済力になった」と喜び、誘致祝いとして市内に芸者連による花魁道中（注1）まで繰り出したといわれます。

福島出張所は、現在も同じ場所に支店を構える福島市本町の七七〇坪（約二、五五〇㎡）の土地とそこに建つ二三棟の建物を購入してスタートしました。（図1）このうち出張所の営業所として、福島有数の生糸問屋「万国屋」が所有していた土蔵造りの二階建て



写真上 旧店舗の外観  
写真下 旧店舗の営業場

（注1）花魁道中  
江戸時代、位の高い吉原遊郭の遊女が馴染み客を迎えるため、美しく着飾って遊郭の中を練り歩いたこと。今日でも各地の催し物として再現されている。

（注2）奥村精一郎  
明治四十二年（一九〇九）東京帝国大学工科大学（現在の東京帝国大学工科大学）（建築）学科を卒業。日本銀行技師。日本銀行旧函館支店、日本銀行旧福島支店の設計に携わる。

（注3）葛西萬司  
明治二十三年（一八九〇）帝国大学工科大学（現在の東京帝国大学工科大学）（建築）学科を卒業。日本銀行技師として本店本館、西部支店に携わった後、辰野金吾と辰野葛西建築事務所を共同経営。旧盛岡銀行本店本館、東京駅等を設計。



図1 福島支店の所在地



(注) 昭和2年に建築された木造平屋建ての純和風建築で、阿武隈川を借景とした日本庭園と共に市民の憩いの場として親しまれている。(平成12年に福島市に売却)



写真3 辰野金吾  
明治12年(1879)工部大学校(現在の東京大学工学部)造家(建築)学科を第1回生として卒業。近代日本建築界の先覚者。日本銀行建築顧問。日本銀行本店本館のほか、東京駅など明治大正期の日本を代表する建築物を数多く手掛けた。(日本銀行金融研究所アーカイブ所蔵)



写真4 長野宇平治  
明治26年(1893)帝国大学工科大学(現在の東京大学工学部)造家(建築)学科を卒業。わが国屈指の古典主義建築家として知られ、日本銀行本支店を始めとする数多くの銀行建築を手掛けた。(日本銀行金融研究所アーカイブ所蔵)

で、二階には八〇畳敷きという福島一と言われた大広間をもつ建物を使用しました。(写真1、2)

開設当初の建物はいずれも敷地内の既存土蔵等を改造したものでした。老朽化が進み、さらに事務量の増加による狭隘化<sup>せうがい化</sup>が著しくなったため、明治四十年(一九〇七)十二月には、平屋建てのレンガ造りの金庫を新築し、更に将来的な建て替えに先行して、敷地内の既存行舎を仮営業所として増改築することになります。

そして明治四十二年(一九〇九)十月、福島出張所の新築計画が決定します。

### 福島出張所(支店)の建築

福島出張所の新築計画が進められるなか、明治四十四年(一九一〇)六月に出張所は支店に昇格します。

福島支店の設計は、辰野金吾(写真3)と長野宇平治(写真4)に委ねられ、さらに函館支店の設計に引き続き奥村精一郎(注2)が再び加わりました。

辰野は明治二十九年(一八九六)に日本銀行本店本館を完成させた後、引き続き日本銀行建築工事顧問として、大阪支店の新築時から日本銀行技師長を務める長野と共に、大阪、名古屋、京都、広島、金沢、函館、小樽の各支店(出張所)に続いて福島的设计に携わることになります。

また、辰野は明治三十五年(一九〇二)に帝国大学工科大学の学長を辞し、元日本銀行技師の葛西萬司(注3)をパートナーとして辰野葛西建築事務

所を設立し、東京駅舎(注4)を始めとする数多くの建物を設計する中で、東北地方でも福島支店に前後して盛岡銀行(注5)や福島県農工銀行(注6)などを設計することになります。

一方、長野は明治四十二年(一九〇九)七月に着工した小樽と翌明治四十三年(一九一〇)春の着工を予定している函館の設計中に福島支店の設計が始まることとなり、二週間近い行程で東北・北海道の三つの建設地を精力的に確認してまわることになります。

また、長野は台湾総督府(注7)の設計コンペで優勝するなど建築家としての名声を上げ、後に自らの建築事務所を設立する転機となる時期でもありました。

明治期に開設した本支店の建築は、本店本館から始まり福島支店を最後に一段落することとなり、昭和元年(一九一六)に日本銀行の建築組織は解散します。福島支店は辰野と長野が共同で設計する最後の建物となりました。

新築工事は、先行して建築した仮営業所を使用しながら先ず旧本館を撤去し、その跡に新築する新本館に業務を移した後、仮営業所と残存付属家<sup>ふぞくや</sup>を撤去し、さらに金庫の増築と新付属家等

(注4) 東京駅舎  
辰野葛西建築事務所的设计により明治四十一年(一九〇八)に着工し、大正三年(一九一四)に開業した東京の中央停車場。東京大空襲により焼失したドーム屋根等は平成二十四年(二〇一三)に復原された。国の重要文化財に指定。

(注5) 盛岡銀行  
明治二十九年(一八九六)に岩手県盛岡に設立された商業銀行で現在の岩手銀行につながる。明治四十四年(一九一〇)に建築された本店は辰野葛西建築事務所の設計による辰野式赤レンガ建物で、若手銀行中橋支店として現存し、国の重要文化財に指定されている。

(注6) 福島県農工銀行  
農工業の改良のための長期融資を目的に、明治三十一年(一八九八)に設立し、昭和十九年(一九四四)に日本勧業銀行(現みずほ銀行)と合併(勧業銀行福島支店)。日本銀行福島支店と同時に建築された本店は辰野葛西建築事務所的设计による辰野式赤レンガ建物で昭和中期に解体された。

(注7) 台湾総督府  
明治三十八年(一九〇五)に設立された台湾を統治するために設立された日本の出先機関(昭和二十年(一九四五)解体)。新庁舎建設にあたり、明治四十年(一九〇七)に日本初の正式な建築コンペが行われ、長野宇平治のデザイン案が採用された。同庁舎建物は現在でも台湾の総統府として使用されている。



写真7 旧店舗の外壁装飾

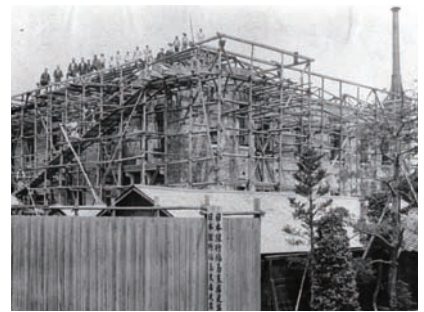


写真5 旧店舗の工事風景



写真6 旧店舗の屋根

を建築することになります。

工事は部分請負で施工されることとなり、レンガ積み等の主要工事は小樽支店建物（明治四十五年（一九二〇七月完成）を一括請負で施工した富樫文治（注8）が日本銀行からの強い信頼を得て、引き続き請け負いました。（写真5）

明治四十四年（一九一九）八月に着工した工事は、大正元年（一九一〇）十一月に本館が完成し、大正二年（一九一三）六月に全ての工事が完成しました。

## 福島市を代表する 明治洋風建築

新築時の福島支店はレンガ造り二階建ての本館、平屋建ての金庫および食堂・宿直室等の配置された木造平屋建ての付属家のほか、レンガ造り二階建ての倉庫等で構成され、本館、金庫お

よび付属家は渡り廊下で接続されています。（図2）

本館の大屋根は、先に完成した小樽支店と同様に鉄骨トラス構造の小屋根組みで支えられ、同小屋組みの上に防火用のコンクリートを打ち、その上にスレートを葺いています。また、東南角のドーム屋根と、正面両側にペディメント（注9）を簡素化した切妻屋根を設け、正面の二カ所と背面の一カ所にドーマ窓（注10）を設置しています。（写真6）

外壁はレンガ積みの上に赤砂を練り合わせたモルタルを塗り、腰部の仕上げに稲田産花崗岩とレンガ積みを施しています。（写真7）外壁の装飾として一階に四列、二階最上部に一列の化粧レンガの帯を廻らし、各窓上部にも化粧レンガを貼付しています。

更に、正面外壁の一、二階窓間（四カ所）と切妻屋根（二カ所）の下に施した砂岩製レリーフも特徴のひとつです。

ベージュ色の外壁に簡素化された様式装飾が施された外観には、本店本館から始まる明治期の日本銀行建物に共通する古典主義様式の重厚さから解放されたある種の軽快さが表現されています。

辰野と長野の最後の共作は、長野の

デザインがいままで以上に強く表現されているともいえます。

福島に生まれた軽快な明治洋風建築に市民は目を見張りました。

## 付属家の改築

その後、木造平屋建ての付属家は新築から二〇年近く経過し老朽化が顕著となり、また職員数の急増によりはなはだしく狭くなったため改築されることとなります。木造付属家は隣接する金庫と本館の防火上からも問題があるため、鉄筋コンクリート造二階建てとして、昭和七年（一九三二）十二月に完成しました。（写真8）

更に、昭和二十四年末には職員数が大幅に増加し、付属家が再び狭くなったことから、昭和二十五年（一九五〇）十月に既存の二階建て付属家の上に鉄骨造の三階を増築（写真9）したほか、翌二十六年（一九五二）八月に自動車車庫を新築し、更に二十七年（一九五二）に荷捌所を新築することに対応しました。（図3）

また、昭和四十年代に入り、金庫の保管量増加に伴う将来的な金庫増設に対応する余地を確保するため、昭和四十三年（一九六八）十一月に東側に隣接する二四〇坪（約八〇〇㎡）の土



写真9 昭和25年増築の付属家（右側）



写真8 昭和7年改築の付属家

（注8）富樫文治

明治期の東京神田の棟梁。日本銀行本店本館の施工に関わったほか、小樽支店と福島支店の新築工事を請け負った。大正六年（一九一七）の新聞死亡記事（享年六四歳）で「建築請負業界の偉人」と紹介されている。

（注9）ペディメント

西洋建築の切り妻屋根における妻側屋根下部と水平材に囲まれた三角形の部分。

（注10）ドーマ窓

西洋建築における屋根裏や吹き抜けへの明かり採りや外気導入を目的とした窓。



写真10 現在の福島支店

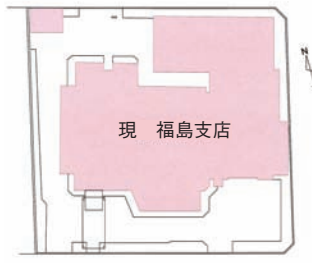


図4 現在の福島支店の配置図

その後の更なる業務拡大により、昭和四十年代末には既存金庫の収容力は飽和状態となり、本館建物も狭隘化と老朽化が著しくなり業務に支障が出てきたため、新店舗の建築が計画されることとなります。

文化財や町並み保存の必要性が強くなり求められ始めた時代を反映し、日本銀行では福島最後の明治洋風建築となっていた二代目店舗の保存および代替地への移転新築を検討したものの、取引先の利便性と老朽化対応も考慮すると難しく、現地建て替えしか選択肢はありませんでした。

### 福島の記憶に残る旧店舗

地を購入します。

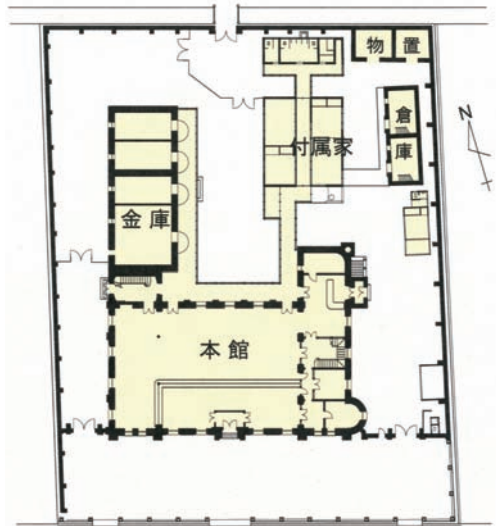


図2 旧店舗の配置図（新築時）

市民に惜しまれながらも、昭和五十三年（一九七八）十二月に旧店舗は解体されました。その跡地に新店舗の建設が開始され、昭和五十五年（一九八〇）に完成しました。写真10、図4完成した新店舗は、旧店舗に比べ延床面積を二倍、金庫収容能力を六倍に増大したものでした。

旧店舗の解体に先立って、市民への一般見学が行われ、また旧店舗の内装材の一部を取り外し福島市に寄贈しました。

現在も、福島支店の面する表通り（レング通り）は金融機関、証券会社、生命保険会社などが立ち並び、「福島のウォール街」と呼ばれています。（写真11）かつて路面電車が走っていた通り

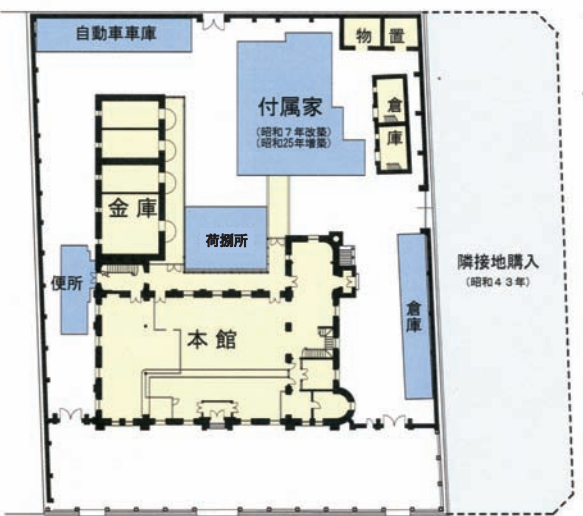


図3 旧店舗の配置図（昭和27年荷捌所増築時）

大震災を乗り越えた福島支店が、いつまでも変わらず市民に親しまれていくことを願っています。



写真11 旧店舗時代の「福島のウォール街」風景

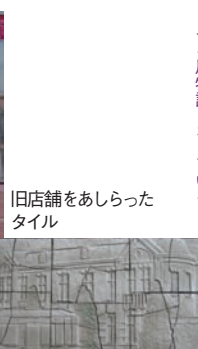
は、レンガを敷き詰め、ベンチやプロンズ像が配置されたコミュニティ道路に整備され、レンガ通りと呼ばれています。その歩道には路面電車（注1）や春の風物詩「吾妻の雪うさぎ」（注2）と共に、福島支店の旧店舗をあしらったタイルもはめ込まれ、福島の懐かしい記憶を残しています。（写真12、13）

平成二十三年（二〇二一）三月、東日本大震災が発生し、福島県は甚大な被害を受けました。幸い地震による福島支店の被害はほとんどなく、当地が原発事故による風評被害や相次ぐ余震に見舞われる中、他店からの応援も仰ぎながら地域経済の復旧・復興に力を尽くしました。



上/写真12 現在のレンガ通り風景

左/写真13 レンガ通りを走る路面電車



旧店舗をあしらったタイル

（注1）路面電車  
福島市内と伊達市の主要地を結ぶ路面電車。明治四十一年（一九〇八）に信達軌道として開業した後、飯坂東線、福島交通と改称し、昭和四十六年（一九七二）に廃止されるまで、市民の足として親しまれた。

（注2）吾妻の雪うさぎ  
早春の吾妻小富士（摺鉢山）の山肌に残る雪がうさぎのような形に見えることから「雪うさぎ」と呼ばれる。福島市民に春の訪れを知らせる風物詩となっている。

日本銀行が全面支援する「金融広報中央委員会」

# 「生きる力」「自立する力」を高めて

日本銀行は金融政策や金融システムの安定に関わるさまざまな業務に加え、お金に関する情報提供や学習支援を行う「金融広報中央委員会」の事務局を務め、その活動を全面的に支援しています。

金融広報中央委員会は、戦後まもない一九五〇年代から活動をスタートし、各都道府県の金融広報委員会や関係団体と連携しながら、お金の面から「生きる力」「自立する力」を高めるための各種の取り組みを続けてきました。歴史的経緯から現在の活動内容まで、事務局を担う情報サービス局金融広報課の方々に詳しく聞きます。

「中立・公正」の立場から暮らしに役立つお金の知識・知恵を提供する

「現代社会は、日々の生活から貯蓄や資産運用、住宅ローン、保険など、いろいろな面で『お金』との関わりを持つことが避けられません。多種多様な金融商品があふれ、金融トラブルも絶えません。

そこで、私たち金融広報中央委員会では、生活していく上で必要なお金の知識・知恵を分かりやすく、あまねくお届けする役割を担っています。私たちは、皆さんがより良い暮らしを実現するお手伝いをしたいという思いで活動しています」

こう話すのは、金融広報中央委員会事務局

で企画役補佐を務める入江高宏さん。

金融広報中央委員会の目的は、お金に関する知識やノウハウを広く一般に提供し、国民一人ひとりの経済的な自立とより良い暮らしの実現をめざすこと、と云えます。

同委員会は、金融経済団体や消費者団体、報道機関などの代表のほか、学識経験者、関係官庁、日本銀行などで構成される組織です。またすべての都道府県に金融広報委員会があり、中央と地方が互いに協力しながら全国規模で活動しています。

金融広報中央委員会の事務局は日本銀行情報サービス局内にあり、同局金融広報課の約三〇名が委員会の活動に従事しています。

金融広報中央委員会の歴史は古く、もともと



「知るぽるとホームページ」(http://www.shiruporuto.jp/)の中の「生活設計診断」

とは「貯蓄増強中央委員会」という名称でした。その設立は一九五二年。戦後まもない頃で、インフレを抑制し、人々の健全な生活を実現するために『貯蓄』の大切さを伝えることが目的でした。翌五三年には、家計の状況のアンケート調査である「貯蓄に関する世論調査」(現在の「家計の金融行動に関する世論調査」)も開始しています。その後、時代のニーズに合わせて、より役立つ情報提供を

しようと、活動内容や組織名称を変更してきました。現在の『金融広報中央委員会』に改めたのは、二〇〇一年四月から。貯蓄の大切さも含め、暮らしに役立つお金に関する幅広い情報提供に主眼を置くようになりました。

〇四年には、一般の人々に委員会の活動を身近なものとして感じてもらうとうと、「知る」と「愛する」という愛称も付けました。「ぼろ」とは「入り口」「港・porto」という意味。お金について迷ったときや調べてみたいと思ったとき、気軽に委員会の情報を利用してください、という意味を込めたのです。

とはいえ、金融経済の情報を一般に提供している組織は、金融広報中央委員会に限りません。最近では、インターネットのウェブサイトや雑誌でもいろいろな情報を扱っています。民間でも同様のサービスを行っている組織があります。それらと金融広報中央委員会のあいだに、何か違いがあるのでしょうか。

入江さんは、こう強調します。

「私たちの委員会は『中立・公正』であることを活動の基本に据えています。これが最大の特徴でしょう。たとえば、さまざまな刊行物を通じてお金に関する情報をお伝えしますが、そのなかで特定の金融商品を勧めることはありません。『日銀が事務局を務める委員会の情報だから安心』という声をアンケートで頂きます。そう思っただけで頂くことが私たちの責任感につながり、正しい情報、できるだけ

け役に立つ情報を発信したいという気持ちが強くなるんです」

### 詐欺にかからないためにも 「金融リテラシー」の向上が必要

近年、「金融リテラシー」という言葉がメディアなどでよく使われています。「お金に関する知識と判断力」と言い換えることができますが、〇八年のリーマンショックに端を発した世界的な金融危機以降、この言葉により大きな注目が集まるようになりました。金融危機は、もとをたざせばアメリカで住宅ローンを借りた人々がお金を返せなくなったことから始まったのです。人々が金融の知識やノウハウを得て、お金を借りる際に自分の確かな判断ができていれば、危機は発生しなかったかもしれません。

入江さんは「より良い暮らしのためには、金融リテラシーを高めることが一層大事になるでしょう。そのことは主要国が集まるG20等での国際的な議論でも認識されています。こうした流れを受け、日本でも金融教育の重要性が高まっています」と指摘します。

最近の環境変化に合わせて、金融広報中央委員会では、関係官庁、金融関連団体、有識者をメンバーとする「金融経済教育推進会議」を設置し、「国民が最低限習得すべき金融リテラシー」の普及に向けて、さらに力を入れて取り組んでいます。

このように金融広報中央委員会の役割は、ますます重要になってきています。同委員会の活動がカバーする範囲は広く、内容も多岐にわたります。

たとえば、金融商品・金融機関を選ぶ基準やポイント、リスクについての考え方、生活設計や家計管理に必要な知識、消費者保護の仕組み、あるいは金融トラブルについての法律知識などを、基本からわかりやすく一般の方々に伝えるために、二〇種類以上の冊子(資料)を発行しています。

さらに今年3月には『大人のためのお金と生活の知恵』というパンフレットを発行しました。これは、より豊かで安心できる生活を送るために、大人が身に付けたいお金や生活の知恵を紹介したものです。

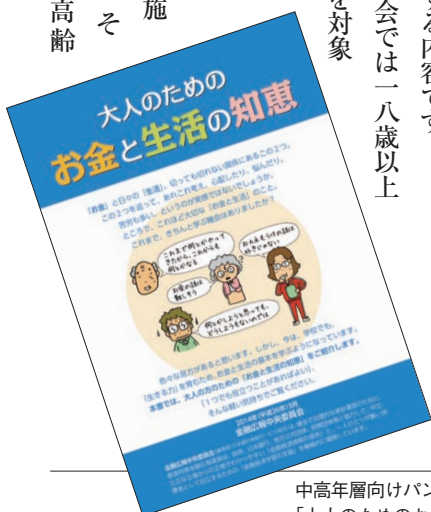
同委員会の広報誌『くらし塾 きんゆう塾』では、『わたしはダメサレナイ!!』というマンガのコーナーもあります。実際の事件を題材に、その「だましのシーン」を再現し、注意を喚起する内容です。

「当委員会では一八歳以上の二万人を対象

に『金

融力調

査』(二一年)を実施しました。その結果、高齢



中高年層向けパンフレット  
「大人のためのお金と生活の知恵」



者は、他の世代と比較して、より多くの人が「自分の金融に関する知識や判断能力は十分高い」と考えていました。しかし、実際に知識を問う設問への正答率は、他の世代より低めだったのです。高齢者を狙った詐欺が後を絶ちませんが、背景には高齢者の金融リテラシーの不足があると思います。マンガなどでわかりやすく金融知識や情報を伝えながら、『私だけは大丈夫』と考えないように促しています」（入江さん）

### 「知るぽるとホームページ」 「知るぽるとホームページ」

金融広報中央委員会では、各種冊子を発行しているほか、お金の知恵や知識に関するセミナーへの講師派遣や、知識習得のためのビデオの貸出サービスも無料で実施しています。都道府県の金融広報委員会でも、著名な

講師による講座や講演会を開催しています。各種冊子や講演会の内容は、「知るぽるとホームページ」で公開しています。同委員会ではホームページ運営にたずさわる担当者は六名。そのうちの一人、同委員会事務局主査の入船剛いりふねたかしさんはこう話します。

「ホームページを開設したのは一九九七年と比較的早い時期でした。当委員会の基本となる中立・公正な立場から、暮らしに役立つ身近なお金に関する情報をタイムリーに掲載してきた結果、アクセス件数は現在、一日二万件を超えています」

当然ながら、「知るぽるとホームページ」に金融商品の広告バナーは一切ありません。内容は特定の商品や分野に偏らず、ユーザーのアクセスを増やすための検索エンジン対策も基本的なこと以外は行っていません。「コンテンツの質を高めることに精力を注ぎ込んできた結果、アクセスが集まっている」（入船さん）のです。

コンテンツは、紙媒体の冊子等を電子化したものばかりではありません。ネットの双方向性を生かした内容もあります。「たとえば、家計に関するシミュレーションソフトを無料で公開しており、中でも『生活設計診断』コーナーは人気です。ぜひ一度試して頂きたいですね」と、入船さんは言います。

これは将来の暮らし向きが手軽・簡単に診断できるシミュレーション・ツールになっています。入力画面の必須入力項目は「世帯主の年齢」と「現在の年間生活費」の二つだけです。あとは関心のある項目を入力していきます。診断結果は視覚的に把握できるようになっており、ユーザーの方々は自分の暮らしの現状を把握し、老後の暮らしに向けた課題

を見通すこともできます。まさに、お金の面で自立する力を高めることができるのです。

### 「お金について学ぶことを通じ 「生きる力」を育む

お金についての知識は大人になる前の、小・中学生、高校生のうち身に付けておくことが大切です。金融広報中央委員会では、一九七三年に「金銭教育研究校」制度を創設するなど、長年「金融教育」の普及に力を入れて、若い世代にお金の大切さを伝えてきました。二〇〇三年からは高校生への教育にも重点を置くようになり、〇五年度を「金融教育元年」と位置づけ、教育内容を拡充しています。〇七年には、文部科学省や学校関係者らと協力しながら、学校の授業で利用しやすい「金融教育プログラム」を策定し、全国の学校に配布しました。

でも、「金融」がなければ社会が成り立たない一方で、その言葉に「お金もうけ」などのかんば芳しくないイメージを持つ人もいます。学校での金融教育がなぜ必要なのか。事務局金融教育プラザリーダーの岡崎竜子りゅうこさんは、こう話します。

「金融教育は、お金に関する知識や能力を身に付けていくことを通じて、社会の中で『生きる力』を育むことを狙っています。今や多くの子どもたちは、小学生から、いろいろなカタチである程度のお金を持っていま

す。アルバイトに関心を持つ中学生・高校生も少なくありません。社会に出る前にお金や金融について幅広く理解することは、将来生きていくうえで欠かせないと考えます」

社会科、家庭科、道徳、算数などに金融教育の内容はこれまでも含まれていましたが、同委員会では改めて『金融教育プログラム』をまとめ、子どもたちの発達段階に応じて教える内容を明記しました(学習指導要領にも、金融教育に該当する内容は含まれています)。

同委員会が発行している『これであなただひとり立ち』という冊子の『私の命を育んだお金はいくら?』というコーナーは、自分が生まれてから高校を卒業するまでにどのくらいのお金がかかったかを計算するワークになっています。子どもたちは、これまで自分にたくさんのお金がかかっていたことを知って親への感謝の気持ちが強まります。

とはいえ、「金融教育は学校にだけ任せておけば十分」というものでもありません。「家庭、地域、関係団体等の協力、お互いの連携があつてこそ、より良い成果が得られるはずです」と岡崎さんは指摘します。

「金融教育公開授業を実施して、保護者や地域の方々に金融教育を見てもらったり、親子で楽しくお金について学べるイベント(親子のためのおかね学習フェスタ)も全国各地で開催しています。夏休みには、小・中学校、高校の先生方等を対象に、金融教育のよ

り効果的な指導方法などを共有するセミナーも行っていきます。どの取り組みも、開催後のアンケート等で効果測定すると、さまざまな成果につながっていることがわかります」

例えば、イベントの参加者に対して、開催1カ月後に実施したアンケート結果では、「子どもがこづかい帳をつけはじめた」とか、「お金は働いて得るものという考え方が身に付いた」との回答が少なくありません。

### お金・金融に関する情報提供や学びの支援を行う各地の金融広報委員会

各都道府県の金融広報委員会では地域に密着した活動をしています。全国に約五〇〇人いる金融広報アドバイザー(金融広報委員会の活動目的や社会的意義に賛同して活動する、専門性を有するボランティア)を講師として地域主催の講座に派遣したり、お金について学ぶセミナーを開いたりしています。

東京都金融広報委員会事務局の佐藤成子<sup>しげこ</sup>さんは「当委員会では、毎年夏に東京で開催される親子向けイベント『丸の内キッズジャンボリー』に参加し、セミナーとブースの出展を行っています」と話します。

「たとえば、五〜六名でチームを作り、チーム対抗のゲームで金銭感覚を養える催しを行ったりしています。私は五年ほど続けて携わっていますが、毎年来られるご家族もいらっっしゃいます。『お給料がどこから来るの

か、子どもが理解するようになった』などと声をかけてもらったり、成果を実感することが多いですね」

このほか東京都金融広報委員会では、ユニークな取り組みの一つとして、矯正施設での金融教育も行っています。矯正施設の被収容者には、お金の知恵や知識についてしっかり学んだことがない人が少なくありません。同委員会では、都内の少年院と刑務所(各一カ所)に金融広報アドバイザーを講師として派遣し、社会復帰後に備えた生活設計のノウハウなどについて支援しています。

\*\*\*

若い世代も含めて、金融教育や金融学習の取り組みが活発になれば、金融リテラシーの向上を通じて一般の一人ひとりが経済的に自立し、より良い暮らしを送れるようになるでしょう。そうなれば、公正で持続可能な社会の実現につながっていくはずです。全国各地の金融広報委員会や関係団体などと連携して活動する金融広報中央委員会は、そのような社会の実現に向けてトップランナーの役割を担っているのです。



「親子のためのおかね学習フェスタ」の  
一コマ (「カレー作りゲーム」)



# 日本銀行のレポートから

日本銀行は、4月および10月の政策委員会・金融政策決定会合において、先行きの経済・物価見通しや上振れ・下振れ要因を詳しく点検し、そのもとでの金融政策運営の考え方を整理した「経済・物価情勢の展望」（展望レポート）を決定し、公表しています。本稿では、2014年4月の展望レポート（基本的見解は4月30日公表、背景説明を含む全文は5月1日公表）のポイントを解説します。

\*全文は日本銀行ホームページに掲載されています。http://www.boj.or.jp/mopo/outlook/index.htm/

## 「経済・物価情勢の展望」（展望レポート）

—— 二〇一四年四月 ——

### 展望レポートのポイント

#### 二〇一四～二〇一六年度の 中心的な見通し（図表1・2）

##### 【景気】

国内需要が堅調さを維持する中で、輸出も緩やかなら増加していくと見込まれ、生産・所得・支出の好循環は持続すると考えられる。このため、わが国経済は、二回の消費税率引き上げに伴う駆け込み需要とその反動の影響を受けつつも、基調的には潜在成長率を上回る成長を続けると予想される。

##### 【物価】

消費者物価の前年比（消費税率引き上げの直接的な影響を除くべし）の先行きを展望すると、暫くの間、一％台前半で推移したあと、本年度後半から再び上昇傾向をたどり、見通し期間の中盤頃に、「物価安定の目標」である二％程度に達する可能性が高い。その後は、中長期的な予想物価上昇率が二％程度に向けて収斂していくも、マクロ的な需給バランスはプラス幅の拡大を続けることから、強含んで推移すると考えられる。

#### 二〇一四～二〇一六年度の 中心的な見通しの前提

##### 【景気】

- ① 日本銀行が「量的・質的金融緩和」（図表3）を着実に推進していく中で、金融環境の緩和度合いは一段と強まっていく。
- ② 海外経済については、先進国が堅調な景気回復を続け、その好影響が新興国にも徐々に波及していく中で、緩やかに成長率を高めていく。
- ③ 公共投資は、二〇一四年度上期にかけて、経済対策の押し上げ効果から高水準で推移したあと、次第に緩やかな減少傾向に転じていく。
- ④ 政府による規制・制度改革などの



図表 1 展望レポートのポイント

## 2014～2016年度の中心的な見通し

### 【景気】

2回の消費税率引き上げに伴う駆け込み需要とその反動の影響を受けつつも、基調的には潜在成長率を上回る成長を続けると予想される。

### 【物価】

消費者物価の前年比（消費税率引き上げの直接的な影響を除くベース）は、暫くの間、1%台前半で推移したあと、本年度後半から再び上昇傾向をたどり、見通し期間の中盤頃に2%程度に達する可能性が高い。その後次第に、これを安定的に持続する成長経路へと移行していくとみられる。

図表 2 政策委員見通しの中央値（対前年度比、%）

	実質GDP	消費者物価指数 (除く生鮮食品)	消費税率引き上げの 影響を除くケース
2014年度	+ 1.1	+ 3.3	+ 1.3
(1月時点の見通し)	(+ 1.4)	(+ 3.3)	(+ 1.3)
2015年度	+ 1.5	+ 2.6	+ 1.9
(1月時点の見通し)	(+ 1.5)	(+ 2.6)	(+ 1.9)
2016年度	+ 1.3	+ 2.8	+ 2.1

(注1) 今回の見通しでは、消費税率について、既の実施済みの8%への引き上げに加え、2015年10月に10%に引き上げられることを前提としているが、各政策委員は、消費税率引き上げの直接的な影響を除いた消費者物価の見通し計数を作成している。

(注2) 消費税率引き上げの直接的な影響を含む消費者物価の見通しは、税率引き上げが現行の課税品目すべてにフル転嫁されることを前提に、物価の押し上げ寄与を機械的に計算したうえで（2014年度：+2.0%ポイント、2015年度：+0.7%ポイント、2016年度：+0.7%ポイント）、これを上記の政策委員の見通しに足し上げたものである。

成長戦略の推進や、そのもとでの女性や高齢者による労働参加の高まり、企業による生産性向上に向けた取り組みと内外需要の掘り起こしなどもあつて、企業や家計の中長期的な成長期待は、緩やかに高まっていく。

### 【物価】

①労働や設備の稼働状況を表すマクロ的な需給バランスは、雇用誘発効果の大きい国内需要が堅調に推移していることを反映して、労働面を中心に改善を続けており（図表4、最近は過去の長期平均並みであるゼロ近傍に達している）。

②中長期的な予想物価上昇率については、全体として上昇しており、こうした動きは実際の賃金・物価形成にも影響を及ぼし始めている。

③輸入物価については、国際商品市況や為替相場の動きを反映して、エネルギーを中心とした押し上げ効果は本年夏頃にかけて減衰していく。

図表3 「量的・質的金融緩和」(2013年4月4日導入)

図表 3-1 「量的・質的金融緩和」

1. マネタリーベース・コントロールの採用

- 「マネタリーベースが、年間約60～70兆円に相当するペースで増加するよう金融市場調節を行う。」

2. 長期国債買入れの拡大と年限長期化

- イールドカーブ全体の金利低下を促す観点から、長期国債の保有残高が年間約50兆円に相当するペースで増加するよう買入れを行う。
- 長期国債の買入れ対象を全ゾーンの国債としたうえで、買入れの平均残存期間を、3年弱から国債発行残高の平均並みの7年程度に延長する。

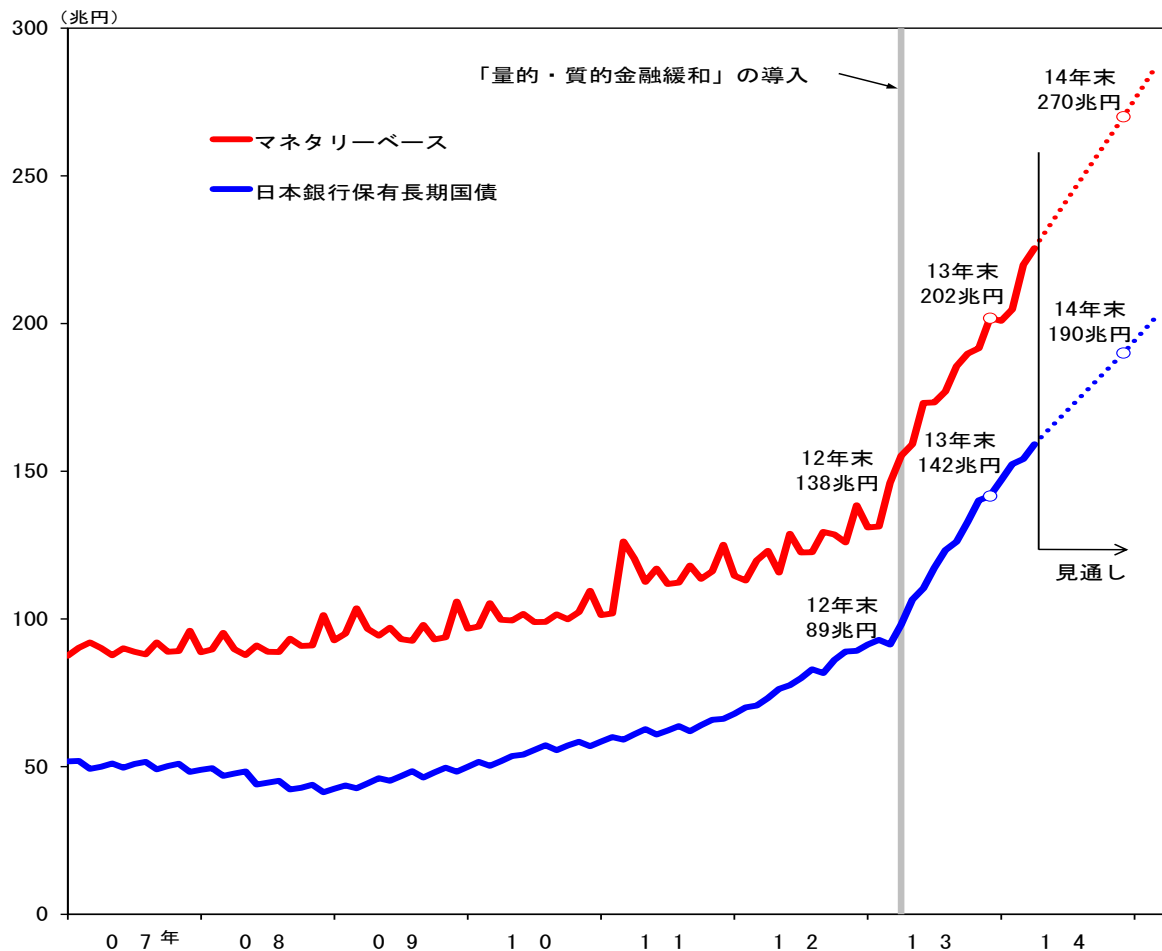
3. ETF、J-REITの買入れの拡大

- 資産価格のプレミアムに働きかける観点から、ETF および J-REIT の保有残高が、それぞれ年間約1兆円、年間約300億円に相当するペースで増加するよう買入れを行う。

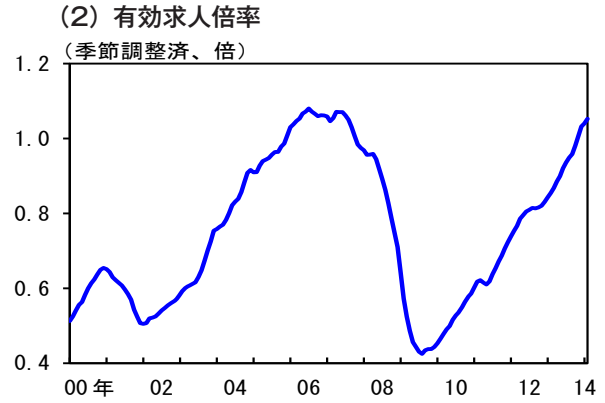
4. 「量的・質的金融緩和」の継続

- 「量的・質的金融緩和」は、2%の「物価安定の目標」の実現を目指し、これを安定的に持続するために必要な時点まで継続する。
  - ▶ その際、経済・物価情勢について上下双方向のリスク要因を点検し、必要な調整を行う。

図表 3-2 マネタリーベースと長期国債保有残高の推移



図表4 雇用環境



見通しの上振れ・下振れ要因

【景気】

- ① 輸出動向
- ② 消費税率引き上げの影響
- ③ 企業や家計の中長期的な成長期待
- ④ 財政の中長期的な持続可能性

【物価】

- ① 企業や家計の中長期的な予想物価上昇率の動向
- ② マクロ的な需給バランス
- ③ 物価上昇率のマクロ的な需給バランスに対する感応度
- ④ 輸入物価の動向

当面の金融政策運営に関する考え方

二つの「柱」による点検

「物価安定の目標」のもとで、二つの「柱」により経済・物価情勢を点検する（注）。

第一の柱、すなわち中心的な見通しについて点検すると、わが国経済は、見通し期間の中盤頃に、二程度度の物価上昇率を実現し、その後次第に、これを安定的に持続する成長経路へと移行していく可能性が高いと判断される。

第二の柱、すなわち金融政策運営

の観点から重視すべきリスクについて点検すると、中心的な経済の見通しについては、輸出の動向など不確実性は大きいものの、リスクは上下にバランスしていると評価できる。物価の中心的な見通しについても、中長期的な予想物価上昇率の動向などを巡って不確実性は大きいものの、リスクは上下に概ねバランスしていると考えられる。より長期的な視点から金融面の不均衡について点

検すると、現時点では、資産市場や金融機関行動において過度な期待の強気化を示す動きは観察されない。もともと、政府債務残高が累増する中で、金融機関の国債保有残高は、このところ減少しつつも引き続き高水準である点には留意する必要がある。

金融政策運営

「量的・質的金融緩和」は所期の効果を発揮しており、今後とも、日本銀行は、二%の「物価安定の目標」の実現を目指し、これを安定的に持続するために必要な時点まで、「量的・質的金融緩和」を継続する。その際、経済・物価情勢について上下双方のリスク要因を点検し、必要な調整を行う。

（注）「物価安定の目標」のもとでの二つの「柱」による点検については、日本銀行「金融政策運営の枠組みのもとでの「物価安定の目標」について」（二〇一三年一月二十一日）参照。



# 日本銀行のレポートから

日本銀行は、わが国金融システムの安定性について包括的な分析・評価を示し、金融システムの安定性確保に向けて関係者とのコミュニケーションを深めることを目的に『金融システムレポート』を年2回作成・公表しています。『金融システムレポート』の分析結果については、金融システムの安定性確保のための施策立案や、考査・モニタリングを通じた個別金融機関への指導・助言に活用しています。また、国際的な規制・監督の議論にも活かしています。金融政策においても、マクロ的な金融システムの安定性評価は、中長期的な視点も含めた経済・物価動向のリスク評価を行ううえで重要な要素のひとつとなっています。

\*全文は日本銀行ホームページに掲載されています。http://www.boj.or.jp/research/brp/fsr/index.htm/

## 「金融システムレポート」

二〇一四年四月

### 今回の特徴

今回の『金融システムレポート』は、定例の定観測に加え、①金利上昇と信用コストの関係を取り込んだマクロ・ストレステストの改良、②マクロ・リスク指標の一つである金融活動指標の見直し、③地域金融機関の収益性に関する分析、などを行い、内容の充実を図っています。また、金融仲介活動やリスクの分析を行ううえで、各指標の集計値や平均値に着目するだけでなく、個別金融機関間における分布状況等についても詳細な検証を行っています。

### 金融システムの総合評価

わが国の金融システムは、全体として安定性を維持している。金融資本市場や金融機関行動において、過度な期待の強気化など、金

融面の不均衡を示す動きは、現時点では観察されない。金融資本市場では、今年に入り、株式市場でボラティリティが高まる局面もみられたが、国債市場、外国為替市場のボラティリティは、総じて落ち着いている。

金融機関（銀行・信用金庫）は、全体としてみると、資本基盤が充実しており、十分な資金流動性も確保されている。このため、大幅な景気後退や金利上昇といったストレスのもとでも自己資本比率が規制水準を維持するなど、金融機関は経済・金融面のショックに対して、相応に強いリスク耐性を備えている。もっとも、景気後退や金利上昇の背景、程度、速さによっては、金融システムに対して影響が及ぶ可能性がある点には、留意が必要である。また、個別にみると、資本基盤が相対的に弱

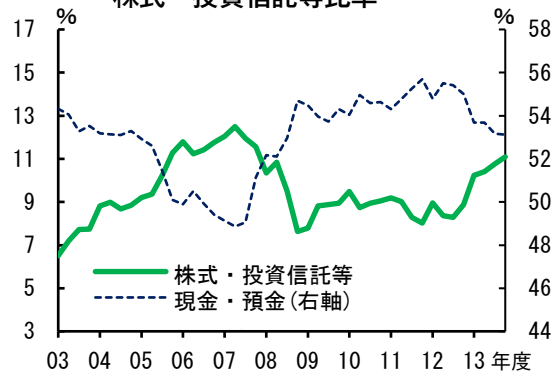
く、リーマン・ショック後の資産内容の回復が遅れている金融機関もみられる。こうした金融機関では、着実に自己資本の強化に取り組んでいく必要がある。

金融仲介活動は、前回レポート時と比べ、より円滑に行われるようになってきている。

金融機関は、国内外での貸出を積極化しているほか、有価証券投資においても、小幅ながらリスク・テイクを強める動きがみられる。金融資本市場を通じた金融仲介も活発になっている。こうしたもとで、企業・家計を取り巻く金融環境は、より緩和的になっている。金融機関の貸出は、中小企業向けを中心に伸びを高めており、業種・地域にも広がりが見られる。

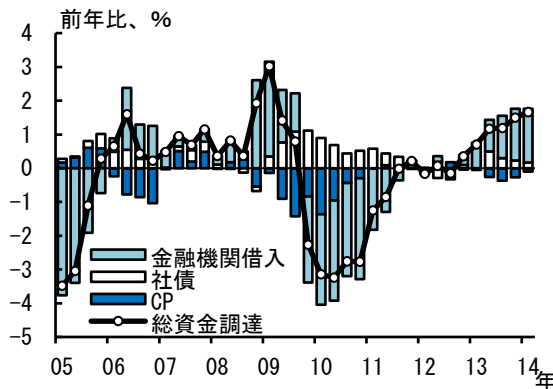
足もとの景気回復は、金融機関の

図表1 家計の現預金比率と  
株式・投資信託等比率



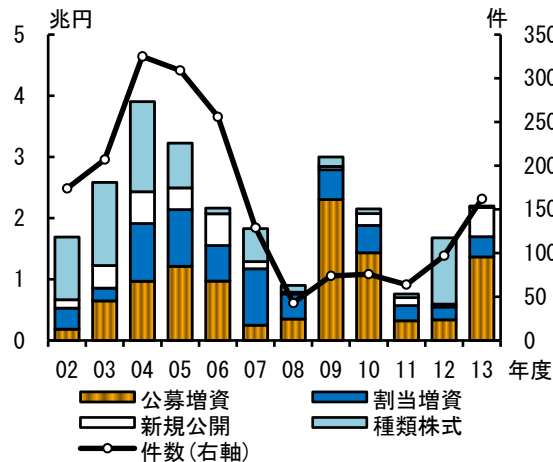
(注) 1. 直近は13年12月末。  
2. 株式・投資信託等は株式、投資信託、対外証券投資、外貨預金の合計。対家計金融資産比率。  
3. 資産残高の増減には、保有資産の時価変動による増減が含まれている。  
(資料) 日本銀行「資金循環統計」

図表2 企業の資金調達残高



(注) 1. 直近は14年2月末。  
2. CPは銀行発行分を含まず、社債は銀行発行分を含む。社債は海外発行分を含む。金融機関借入は、直近のみ銀行、協同組織金融業、保険業の借入分を含む。  
(資料) アイ・エヌ情報センター、証券保管振替機構、日本証券業協会、日本銀行「貸出先別貸出金」「預金・現金・貸出金」

図表3 エクイティ・ファイナンス



(注) 発行・効力発生日ベース。  
(資料) アイ・エヌ情報センター

## 外部環境の点検

収益にもプラスの影響を及ぼしている。株式投資に関連する収益や投資信託の販売増加、信用コストの減少などである。もともと、国内預貸業務を通じる基礎的な収益力は、趨勢的な貸出利鞘の縮小などから、低下傾向に歯止めがかかっている。特に、地域金融機関の収益環境には厳しいものがある。これらは、現下の金融システム全体の安定性や機能度に影響するものではないが、中長期的には損失吸収力やリスク・テイク余力を制約していく可能性があることから、克服していくべき課題である。

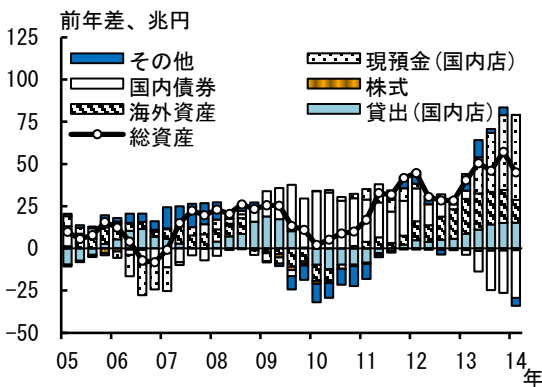
海外経済は、一部になお緩慢さを残しているが、先進国を中心に回復しつつある。こうしたもとで、国際金融資本市場では、欧州債務問題に対する懸念が一段と後退する一方、米国金融政策や新興国の動向に対して敏感な地合いが続いた。年明け後は、経常赤字など構造面で問題を抱える一部の新興国の先行きに対する懸念が高まり、投資家のリスク・テイク姿勢が後退するなどやや神経質な展開となる場面もみられた。

## 金融仲介活動の点検

わが国の景気は、消費税率引き上げの影響による振れを伴いつつも、基調的には緩やかな回復を続けており、企業の財務状況や家計の雇用・所得環境は総じて改善の方向にある。家計は投資信託などリスク性資産の保有を増加させている(図表1)。この間、財政収支は赤字が続いているが、先行き、消費税率の引き上げなどによりプライマリー・バランスの改善が見込まれる。

量的・質的金融緩和のもとで、前回レポート時と比べ、より緩和的になっている(図表2)。大企業・中堅企業だけでなく、中小企業についても調達環境が改善しているほか、家計についても住宅ローン金利が低下している。金融資本市場を通じた金融仲介は、エクイティ・ファイナンスを中心に活発になっている(図表3)。金融機関(銀行・信用金庫)は、量的・質的金融緩和のもとで日本銀行による国債買入れが増加するなか、貸出などのリスク性資産を増加させてい

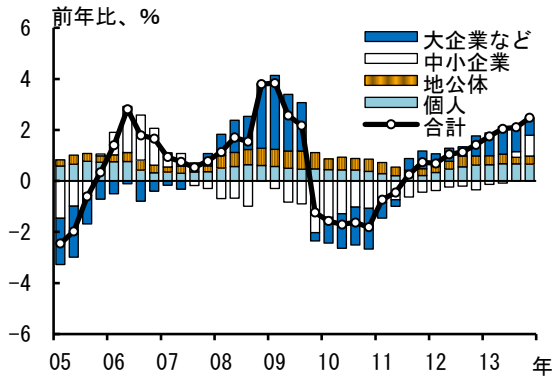
図表4 銀行・信用金庫の資金運用残高



(注) 1. 国内店と海外店の合計。国内店は平残ベース、海外店は末残ベース。  
2. 各四半期の平均の前年差。直近のみ14年1-2月の前年差。  
3. 海外資産は海外証券と海外店貸出の合計。

(資料) 日本銀行

図表5 金融機関の貸出先別貸出残高



(注) 集計対象は銀行と信用金庫。直近は13年12月末。金融業・保険業向けを含む。

(資料) 日本銀行

金融資本市場から  
観察されるリスク

わが国の金融資本市場では、今年に入り、株式市場でボラティリティ

る(図表4)。国内貸出については、中小企業向けを中心に伸びを高めており、業種・地域にも広がりが見られる(図表5)。海外貸出についても、高めの伸びを続けている。有価証券投資では、外国証券や株式投資等への投資が小幅ながら増加した。この間、保険会社等、金融機関以外の投資家の運用動向には、大きな変化はみられていない。

金融仲介機関に  
内在するリスク

金融機関(銀行・信用金庫)の自己資本比率は、全体としてみると、

が上昇する局面がみられた。これは、一部の新興国市場が神経質な動きとなったことや、グローバルな株価下落に伴い投資家のリスク回避姿勢が高まったことによるものである。この間、長期金利は、引き続き日本銀行の大量の国債買入れによる債券需給の引き締めなどを背景に、安定的に推移している。為替市場でもボラティリティは低下傾向にある。

このところ上昇を続けており、規制水準を十分に上回っている。金融機関のリスク量は、金利リスク量と信用リスク量が減少した一方、株式リスク量が保有株式の時価上昇を受けて増加した。以上の結果、金融機関のリスク量は全体としてみると増加したが、そのベースは、概ね自己資本の増加に見合うものとなっており、金融機関の資本基盤は総じて充実していると考えられる(図表6)。また、金融機関は、十分な資金流動性も確保している。ただし、個別にみると、リスク量対比でみて自己資本の充実度が低い先も引き続き相応

金融システムの  
マクロ的なリスク評価

各種リスク指標を点検すると、金融資本市場や金融機関行動において、過度の期待の強化など、金融面の不均衡を示す動きは、現時点で

に存在しており、こうした先は、着実に自己資本の充実に取り組みしていく必要がある。  
この間、足もとの景気回復は、金融機関の収益にプラスの影響を及ぼしている。株式投資に関連する収益や投資信託の販売増加、信用コストの減少などである。もっとも、国内預貸業務を通じる基礎的な収益力は、趨勢的な貸出利鞘の縮小などから、低下傾向に歯止めがかかっていない(図表7)。特に、地域金融機関の収益環境には厳しいものがある。これらは、現下の金融システムの安定性や機能度に影響するものではないが、中長期的には損失吸収力やリスク・テイク余力を抑制していく可能性があることから、克服していくべき課題である。



# 中国のシャドーバンキング

日本銀行北京事務所

最近、中国のシャドーバンキングへの関心が高まっています。「シャドーバンキング」とは、銀行の預金・貸出を経ずに、貸し手と借り手を結びつける信用仲介の動きのことです（注1）。「影の銀行」と訳されるため、「危ない金融」と誤解されることも多いシャドーバンキングですが、実は、どの国にもリースなどシャドーバンキングは存在します。

では、なぜ今、中国のシャドーバンキングが注目されるのでしょうか。それは実態把握が難しい中、シャドーバンキングの拡大テンポが急速であり、かつ急拡大したシャドーバンキングの機能が損なわれた場合に経済へ悪影響を及ぼす可能性があるからです。

一見つかみどころがないだけに、シャドーバンキングを巡る議論は、イメージ先行になりがちです。本稿では、なるべく客観的な事実在即し、中国におけるシャドーバンキング急拡大の背景やその規模、中国の金融経済への留意点などを紹介します。

## 1. シャドーバンキングとは

中国のシャドーバンキングとは、具体的にはどのような資金の動きを指すのでしょうか。

シャドーバンキングは、資金の貸し手と借り手の双方の側面から捉えることができます（図表1、2）。まず、資金を運用する預金者・投資家からみると、銀行理財商品や信託商品が代表的な運用対象です。中国では預金金利の上限は一定水準に規制されているのに対し、これらの商品は金利規制の対象外であり、預金金利より高い予定利回りとなっています。

銀行理財商品等により調達された資金は、社債、銀行引受手形、信託貸出、委託貸出といっ

たかたちで、借り手である企業や地方融資プラットフォーム（資金調達機能と開発デベロッパーを兼ねた地方政府傘下の投資会社、注2）に流れています。こうした資金の流れについて、当局の規制は銀行貸出と比べ緩やかなものとなっています。

## 2. シャドーバンキング拡大の背景

中国政府は、〇八年に発生したリーマンショックに端を発する金融危機に対応し、大規模な景気刺激策を実施しました（いわゆる「四兆元の景気刺激策」）。

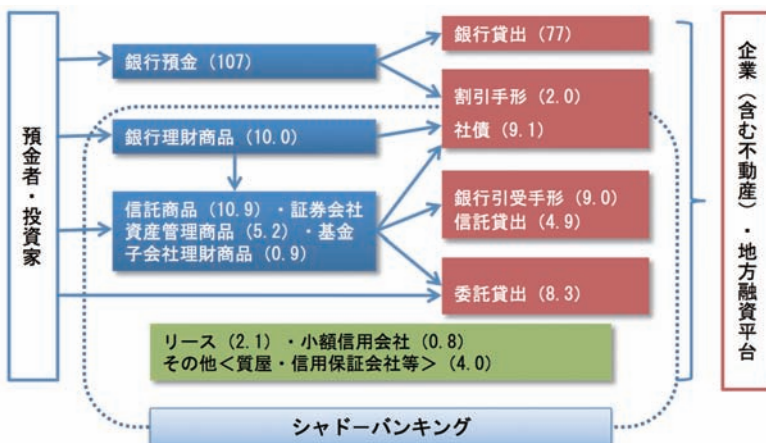
この素早い対応により、中国経済は経済大国の中では最も早い立ち直りをみせましたが、〇九年後半以降、不動産価格の高騰やインフレの

昂進に見舞われました。

これを受けて、中国人民銀行（中央銀行）は、〇九年後半から金融引き締めを転じ、投資を急速に拡大していた不動産デベロッパーや地方融資プラットフォーム、過剰設備を抱える産業向けの貸出を厳しく制限し始めました。このため借り手は、銀行借入以外の資金調達手段を求めることとなりました。

一方、急速な経済発展の中で金融資産を蓄えていた家計部門では、預金金利が規制されている中で、より有利な金融商品への資産運用ニーズが高まっていました。このように、貸し手と

図表1 中国のシャドーバンキングの全体像（単位：兆元）



(注) 2013年末時点



図表2 シャドーバンキングにおける金融商品・金融取引

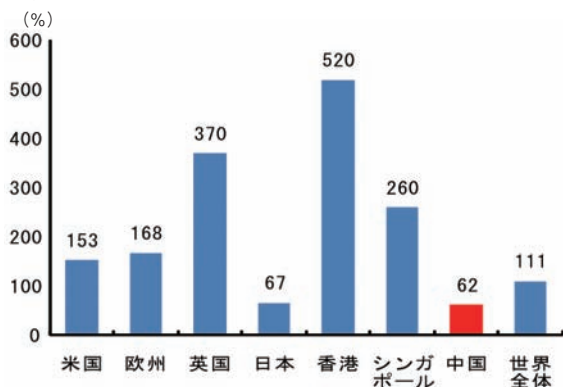
<資金の出し手サイド：主な資金運用商品>

銀行理財商品	銀行が販売する金融商品。仕組みとしては、銀行が販売する固定収益型の投資信託に近い。最低購入金額は5万円(約80万円)程度。
信託商品	信託会社が販売する金融商品。全体のうち20%程度は、銀行理財商品の資金を受け入れる「銀信合作」と呼ばれるタイプ。銀行理財商品に比べ、予定利回りが高く、最低購入金額も100万円(約1,600万円)と大きい。

<資金の借り手サイド：主な資金調達手段>

銀行引受手形	企業が発行する手形のうち、銀行が保証を付けたもの。
信託貸出	投資家から委託を受けた信託会社が行う資金運用のうち、貸出の形態を取るもの。
委託貸出	企業間の資金貸借。その際、銀行が仲介、資金管理等を行う。
リース	企業がリース会社にリース料(賃借料)を支払って生産設備等の供与を受ける取引。
小額貸出	ノンバンクである小額信用会社が行う貸出取引。
その他民間金融	友人・知人間での資金貸借や、法律で認められていない非正規金融として行われる資金貸借。

図表3 シャドーバンキング残高の対GDP比率



(出所) FSB "Global Shadow Banking Monitor Report 2012", JP Morgan "Shadow Banking in China" (2013年5月)を参照。中国は日本銀行北京事務所の試算による。

図表4 社会融資総量残高と銀行貸出残高の対GDP比率



(注) 社会融資総量は、2002年初残高を銀行貸出残高とし、その後のフローの社会融資総量を累計して日本銀行北京事務所が推計。また、分母の名目GDPは、各年の数値を用い、各月が等速で増加していると仮定、また2014年は、2013年と等速で増加していると仮定。

借り手の両者のニーズが合致して、銀行の預金・貸出を経由しない資金の流れ、すなわちシャドーバンキングが急拡大することとなったのです。

### 3. シャドーバンキングの規模

それでは、中国におけるシャドーバンキングはどの程度拡大しているのでしょうか。

まず、図表1をベースとして、中国のシャドーバンキングの規模(残高)を試算すると、一三年末時点では三五兆元(二元〓約一六円)、対GDP比率は六割程度と推計されます。これは主要先進国と比較して、決して高い水準ではありません(図表3)。

もともと、現時点のシャドーバンキングの残高は、一〇年末の三倍以上に増えているとみられ、このところの拡大テンポがかなり速いこと

が指摘されます。

### 4. シャドーバンキング急拡大がもたらす問題

#### (1) 流動性リスクの増大

シャドーバンキングの拡大は、金融システム全体の流動性リスク(資金繰りがつかなくなるリスク)を増大させる点が挙げられます。シャドーバンキングを通じた資金仲介では、最終的な資金の出し手は相対的に短い期間で資金を出し、資金の取り手はそれを長期間の運用・投資に充てています。

このため資金の出し手が、何らかの理由で資金放出を控えると、資金の取り手は資金繰りに窮する恐れがあります。

こうした流動性リスクをはじめ、金融取引に

付随する様々なリスクは、通常の銀行システムにも存在します。しかしながら、当局の規制を含めて、リスク管理体制には大きな差があり、シャドーバンキングにおいてリスクを適切に管理できているか懸念されます。

#### (2) 借り手の債務残高の増加

次に、シャドーバンキングが、借り手企業の債務残高の増加を伴って、拡大してきていることが挙げられます(図表4)。民間部門の負債レベルを示す社会融資総量(注3)残高の対GDP比率は、〇九年以降急速に上昇し、現時点ではGDPの二倍に達しています。一方、銀行貸出残高の対GDP比率は、一〇年以降さほど上昇していません。したがって、負債レベルの急上昇は、シャドーバンキングを通じてもたら

されたと考えられます。

中国では「四兆元の景気刺激策」の副作用として、企業や公的部門の過剰設備と過剰債務が深刻な問題となつています。シャドーバンキングは、過剰設備を抱える企業や、追加の銀行借入が禁じられている地方政府に新たな資金調達ルートを提供したのです。

この結果、信用リスク（債務を返済できなくなるリスク）が増大しているほか、中国経済が構造的に抱える過剰設備問題を助長する恐れも指摘されています。

### (3) 実態把握の難しさ

シャドーバンキングは、銀行システムの外側における資金仲介であるため、金融当局が実態を把握しにくい点が問題解決を難しくしています。一〇年以降、銀行理財商品や信託商品の販売増加に対応し、中国当局は様々な規制を打ち出してきました（後述）。

中国では「上に政策あれば下に対策あり」とよく言われます。金融機関は、規制導入の都度、貸し手と借り手の金融ニーズに因應べく、新しい取引手法を開発してきました。シャドーバンキングは当局の目の届かないところで、借り手の債務を膨らませ、貸し手のリスクを増大させている可能性がある点には留意が必要です。

## 5. 金融当局の対応

上述の問題点を意識して、中国金融当局はシャドーバンキングへの対応を進めており、特

に一二年末以降、矢継ぎ早に規制を強化してきました（図表5）。

まず、シャドーバンキングの主要な資金の入り口である銀行理財商品に関する規制を強化しています。中国銀行業監督管理委員会（日本の金融庁に相当）は、昨年三月、銀行理財商品の運用先について、市場価格がつかない信託等の商品を理財商品販売残高の三五%以内かつ銀行資産の四%以内に制限する規制を導入しました。

また、昨年六月からは、金融機関に対し、販売する銀行理財商品を当局に事前登録するよう義務付け、取引の透明性を向上させました。

さらに、昨年十二月には、政府関係部門に通知を送付し、金融監督当局の分担範囲を明確化し、準備が整った分野から、シャドーバンキングに対する監督を強化する方針を示しました。

金融機関に対する規制強化の動きに加えて、借り手に対する規制強化も同時に進めています。一二年十二月には、地方政府による違法な資金調達を厳しく取り締まる方針を改めて示しました。また、昨年十二月に地方政府幹部の業績評価基準を見直し、地方債務残高を評価項目に加えました。それまでは地方政府が経済成長を追い求めるあまり、地元国有企業に不採算投資を強いたり、地方融資プラットフォームを通じて借入を増やしてインフラ投資を進めたりといった事例がしばしば見られていました。

シャドーバンキングは、資金の一部を提供することで、こうした地方政府の行為を支えてきた面がありました。今後、借り手の資金調達

行為が適正化され、シャドーバンキングの急拡大に歯止めがかかることが期待されています。

## 6. 債務不履行の発生と中国金融システムの安定性

本年入り後、中国では、信託商品の支払遅延例が複数発生し、シャドーバンキングへの懸念が改めて高まりました（図表6）。銀行理財商品や信託商品の大半は元本保証がない商品設計ですが、これまで元本割れとなるケースがなかったことから、投資家は「暗黙の元本保証」が存在すると理解してきました。「暗黙の元本保証」は、投資家のモラルハザード（保証の存在のためにかえって危険回避を行わなくなる現象）を招き、シャドーバンキングを拡大させる要因となってきました。その意味では、個別案件の債務不履行の発生は、モラルハザードを防いで金融システム全体を健全に発展させる効果があると言えます。

一方、流動性リスクには、なお注意が必要です。前述のとおり、シャドーバンキングは、投資家から短期の資金を取り入れ、長期で運用する構造を持っています。個別商品の債務不履行であっても、仮にそれが投資家の不安心理を高め、投資家が資金提供を過度に控える事態になれば、資金調達主体の資金繰りがひっ迫し、企業倒産が相次ぐ懸念もあります。

この点について、李克強（りくきやう）総理は、本年三月の記者会見で「個別案件でみれば（債務不履行は）回避困難である。今後監視を強化し、時宜

図表5 シャドーバンキングに関する当局の規制等

時期	公布主体	内容
2012年12月	財政部 発展改革委 中国人民銀行 銀監会	地方政府に対して、以下の行為を禁止。 ①公益性資産にもとづく地方融資平台への資本注入、 ②信託等による公益的プロジェクトの資金調達、③ 地方政府による債務保証、④地方政府関係者による 理財商品販売等。
2013年3月	銀監会	商業銀行に対して、銀行理財商品の運用の際、市場 性のない資産の残高を理財商品の35%以内かつ銀行 総資産の4%以内にする、運用資産を1対1で 分別管理することを義務付け。
同4月	発展改革委	問題のある企業（過剰設備、環境汚染、資産比で みた負債額大）に対して、社債の発行を制限。
同6月	銀監会	商業銀行に対して、理財商品の販売開始の10日前 までに当局が運用するシステムに事前登録するこ とを義務付け。
同7月	証券業協会	証券会社に対して、投資指図を委託者（銀行）が出 し、投資リスクを委託者（同）が負担することを確認 するとともに、一定規模以下の銀行との銀証合作（銀 行と証券会社が協力すること）を禁止。
同12月	国務院	シャドーバンキングに関する監督当局の職責を明確 化し、監督が手薄だった金融機関に対する監督を強 化する方針を明示。

(注)「財政部」は日本の財務省に相当。「発展改革委員会」は、国土計画・投資計画・マクロ経済運  
営等に関する中央官庁。「銀監会」(中国銀行業監督管理委員会)は金融庁に相当。「証券業協会」  
は証券会社による自主規制機関。「国務院」は内閣に相当。

図表6 最近の債務不履行案件

サンセイインフロン 山西振富能源 <炭鉱>	業容拡大のため2011年に信託を通じて資金調達。そ の後、行政手続等により主要炭鉱の稼働開始が遅れる 中、違法行為を行った当社経営者の逮捕もあり経営難 に。支払期日前に元本部分の返済はされたものの、利 子部分は未払いに(本年1月)。
サンセイレンセイ 山西聯盛集団 <炭鉱>	2011～2012年にかけて生産能力を増強するために、 信託商品等により資金を調達。その後、石炭価格下落 もあり、経営が悪化。信託の期日到来後も未返済(本 年2月)。

にかなった処置を行うことで、地域的、システ  
ム的な金融リスクの発生を必ず回避しなければ  
ならない」と述べています。中国政府は、金融  
システム全体に影響を及ぼさないよう、案件を  
慎重に選別しながら、限定した範囲で債務不履  
行を許容していくものと見られます。

なお、中国では、銀行理財商品はもちろん、  
信託商品の販売にも、多くの場合銀行が深く関  
わっています。銀行が、自分が販売した商品で  
発生した問題に対して、投資家から一定の責任  
を求められる可能性もあります。幸い、中国の  
銀行は、不良債権比率が1%程度と低いほか、

自己資本比率も一二%以上と十分に高く、銀  
行システムは比較的健全と言えます。仮にシャ  
ドーバンキングで問題が生じて、銀行システ  
ムに飛び火し、銀行システムを大きく揺るがす  
問題に発展する可能性は、現時点では低いと考  
えられます。

## 7. シャドーバンキングと金利自由化

最後に、中国におけるシャドーバンキングの  
拡大と金利自由化の関係について述べます。こ  
れまでみてきたように、中国のシャドーバンキ  
ングは、預金金利が規制されている中で、高利

回りを求める投資家に支えられ急速に拡大して  
きました。これは裏返せば、実質的な金利自由  
化が、シャドーバンキング拡大を通じて進展  
していることを意味します。本年三月、周小  
川・中国人民銀行総裁は、個人的見解と断りつ  
つ「預金金利の自由化は、一～二年で完了でき  
ると思う」と述べました。実質的な金利自由化  
が進んでいる以上、預金金利を規制する意義が  
薄れていることを踏まえた発言とみられます。

将来、預金金利の規制が完全に撤廃された場  
合、シャドーバンキングを通じた資金の流れは、  
その多くが再び通常の銀行システムによる信用  
仲介に回帰していくものと想定されます。

こうしてみると、世界が注目する中国のシャ  
ドーバンキング急拡大が、中国の金融経済の過  
渡期における現象としてもご理解いただけるの  
ではないでしょうか。日本銀行北京事務所では、  
国際局、香港事務所と連携し、変貌する中国の  
金融経済を日々ウォッチしています。

(注1) 国際的な金融規制の枠組みを議論する場である金  
融安定理事会(FSB)では、シャドーバンキングを  
「銀行システムの外側で信用仲介機能を果たす活動」と  
定義しています。

(注2) 中国では、地方政府が債務を負うことが禁止され  
ています。このため地方政府は公共政策に近い業務を  
行うために公営企業を設立し、当該企業を通じて資金  
調達を行うことが一般的です。このような企業を「地  
方融資平台」と呼びます。

(注3) 社会融資総量は、中国人民銀行が公表している金  
融関連統計。貸出に加えて、委託貸出、信託貸出、銀  
行引受手形、債券発行等のデータを公表しており、広  
い範囲の資金の動きを把握することができます。

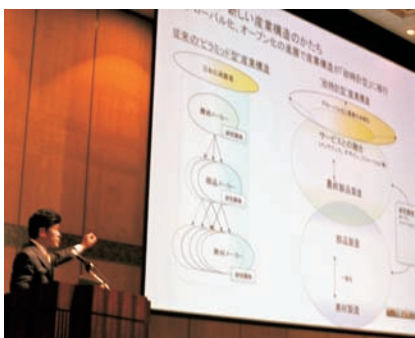
## 金融高度化セミナー（M&A・事業承継支援等）

——参加者から「中小企業向け経営支援は金融機関の使命」との声も

▼日本銀行金融機構局金融高度化センターは、二〇一四年四月十四日に、「中小企業における経営支援ニーズと金融機関の対応（M&A・事業承継支援、ビジネスマッチング等）」と題する金融高度化セミナーを、千代田区で開催しました。参加者数は約四六〇名でした。

▼金融高度化セミナーは、日本銀行の取引先金融機関を対象に開催しているものです。全国の金融機関を対象にした大規模なセミナーは、金融高度化センター開設（二〇〇五年）以来、年平均二回のペースで開催されています。

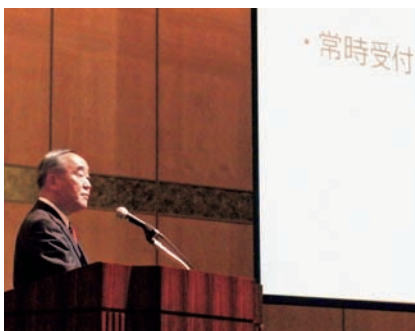
今回のセミナーでは、よねたに米谷達哉金



産業構造の転換における金融機関の役割について語る柳川東大教授

融高度化センター長による挨拶・基調講演の後、柳川範之氏（東京大学教授）、増田寿幸氏（京都信用金庫理事長）、三宅卓すく氏（日本M&Aセンター社長）による講演と金融機関の実務家によるパネル・ディスカッションが行われました。

▼「地域イノベーション推進における金融機関の役割」について講演した柳川氏は、①グローバル化とIT化の進展により、従来のピラミッド型の産業構造が崩れ、今後、産業および企業の新しい組み合わせが生じること、②回りの利く中小企業こそがそうした変化に対応しやすく、例えば、地域の中小企業が直接海外



京都信用金庫のビジネスマッチングについて語る増田理事長



地域金融機関のM&Aについて語る日本M&Aセンター三宅社長

とつながるといった新しい組み合わせによるイノベーションが期待できること、③地域金融機関がそうした動きを支援しやすい立場にあること、を説明しました。

▼「京都信用金庫のビジネスマッチング」について講演した増田氏は、営業店の担当者が販売先や仕入先を紹介するビジネスマッチングを行うことにより、取引先企業の課題解決とともに、①それを通じた企業の実態把握が資金供給業務に活用できること、②営業店担当者の人材育成につながることを、の重要性を具体的なエピソードを紹介しながら説明しました。

▼「地域金融機関のM&A」について講演した三宅氏は、①新しいビジネスの展開を考える「買い手企業」

後継者難・先行き不安を抱える「売り手企業」のいずれもが増加していること、②もつとも、企業の経営者が、自社の売却ニーズを金融機関に示すことには抵抗感があること、③このため、金融機関の支店長は、中小企業の社長がふと漏らす愚痴等に含まれる企業売却ニーズを捉えられようアンテナを高くする必要があらることを説明しました。

▼パネル・ディスカッションには、小池政弘氏（広島銀行法人営業部長）、小西睦人氏（西武信用金庫業務推進企画部副部長）、齋藤哲さとし氏（東邦銀行法人営業部長）、鈴木庸夫つねお氏（静銀経営コンサルディング社長）、吉村茂樹氏（北陸銀行法人・公共営業部副部長）がパネリストと



中小企業の経営支援について、熱いメッセージが語られた パネル・ディスカッション

して登壇されました（モデレーターは米谷金融高度化センター長）。

M & Aに関しては、鈴木氏から、静岡県内の全金融機関が協力して対応する「静岡県事業引継ぎ支援センター」の説明があったほか、小池氏から「怒られたり、泣かれたりしながらM & Aに取り組んだエピソード」が紹介されました。また、企業の経営支援に当たって、小西氏から「顧客の決算の集合体が金融機関の評価」との考え方が示されたほか、齋藤氏からは取引先企業毎にテーマを決めてアプローチする「経営課題提案型営業」の説明がありました。なお、事業承継支援について説明した吉村氏は、「一七年間携わったこの業務が今では天職。有意義な仕事に就けたことに感謝しています」と話されました。

▼企業の経営支援に対するパネリストの熱いメッセージを聞いた参加者からは、「金融機関の使命を再認識した」、「胸が熱くなった」との感想も聞かれました。

▼以上のセミナーの講演およびパネル・ディスカッションの要旨・資料は、日本銀行HPの「金融高度化センター」のコーナーをご覧ください。

## 改良五千円券の発行を開始

（二〇一四年五月十二日）

▼日本銀行では、目の不自由な方々にとって、日本銀行券がより使いやすいものとなるよう、改良を施した五千円券の発行を五月十二日から開始しました。

▼日本銀行の岩田規久男副総裁は、発行開始にあたって同月八日に開催された「五千円券改良記念式典」（独立行政法人国立印刷局主催）に出席し、「改良五千円券が発行され、目の不自由な方々にとって、お札の種類が一層判別しやすくなったことは、日本銀行としても、大きな喜びです。今後も改良五千円券への切り替えが円滑に進むよう努力したいと考えています」と述べました。



「五千円券改良記念式典」で挨拶する岩田副総裁

## 「日銀春休み親子見学会 二〇一四」を開催

▼日本銀行本店では、四月一日（火）、三日（木）の二日間にわたり、小学校四～六年生および中学生のお子さまとその保護者の方を対象に、「日銀春休み親子見学会二〇一四」（協力：金融広報中央委員会）を開催しました。



1億円の重さを体験

▼今回の見学会では、本店見学、体験学習など約二時間のプログラムにご参加いただき、「楽しかった」、「子どものためになった」という感想が寄せられました。

\*重要文化財に指定されている本店本館（旧地下金庫エリアなど）や新館（一階営業場）の見学、日本銀行の仕事や金融経済に関するクイズ、お札に施さ

れている偽造防止技術の紹介、一億円の重さ・お札の数え方体験。

▼毎回ご好評をいただいておりますこの親子見学会の次回の開催は、八月四日（月）～八日（金）を予定しております。「日銀って何をしているところ?」「日銀ってどんなところ?」そのようなお子さまの好奇心にお応えします。どうぞご期待ください。

参加は無料です。お申し込み方法も含め、詳しくは日本銀行HPでご案内いたします。皆さま方のお越しを心よりお待ちしております。



親子で参加「お札の数え方」体験

## 編集後記

■今回のキーワードは「伝える」。女子バレーでは監督から選手に「戦術と情熱」を、わらび座では舞台から観客に「感動」を、伝えています。

「伝える」とは、決して一方的な行為ではなく、「共感」があって初めて成り立つこと。今回の取材でも、「バレーボールは相手の気持ちになってパスをつなぐスポーツ。監督も選手と共通の目標を持つチームメートの視線が大切」と語る真鍋監督。わらび座では、平賀源内役の三重野さんが「舞台は一つのコミュニケーション。毎回お客さまから違う反応があり元気づけられる」と笑顔を見せます。

今回は、金融広報中央委員会の仕事を紹介させて頂きました。この仕事も私たちから国民の方々に「お金と生活の知恵」を「伝える」仕事です。一方的に情報を発信しても、相手に受け止めてもらえなければ、行動の変化につながりません。受け取りやすい「パス」となるよう、相手の立場に立って情報発信に工夫を凝らすなど、日々悪戦苦闘しています。(丹治)

※本誌は、全国の日本銀行本支店および貨幣博物館、旧小樽支店金融資料館等でお配りしています。個人の方の定期購読、郵送はお取り扱いしておりませんのでご了承ください。なお、既刊号全文をPDFファイル形式で日本銀行ホームページ上に掲載していますのでご利用ください。

([http://www.boj.or.jp/announcements/koho\\_nichigin/index.htm/](http://www.boj.or.jp/announcements/koho_nichigin/index.htm/))

※本誌に掲載している内容は、必ずしも日本銀行の見解を反映しているものではありません。日本銀行の政策・業務運営に関する公式見解等については、日本銀行ホームページ (<http://www.boj.or.jp/>) をご覧ください。

にちぎん 2014年夏号  
編集・発行人 丹治芳樹  
発行 日本銀行情報サービス局  
〒103-8660  
東京都中央区日本橋本石町2-1-1  
☎03-3277-2405



デザイン 株式会社市川事務所  
印刷 サンメッセ株式会社  
©日本銀行情報サービス局 禁無断転載

※本誌の用紙は、環境・社会・経済のすべての側面に配慮した厳しい基準に従って適切に管理された森林からの木材を原料としていることを示す、FSC認証紙を使用しています。

▼「日銀グランプリ」は日本銀行の金融教育充実に向けた取り組みの一つとして、学生の皆さんを対象に毎年行っています。今年度も応募論文の受け付けを開始しました。

テーマは「わが国の金融への提言」。わが国の金融に関するものであれば、どのように設定していただいても構いません。多くの学生の皆さんからの斬新な提言をお待ちしています！

## 「第10回日銀グランプリ」 「キャンパスからの提言」 論文募集中！

(締め切り九月三十日)

▼日本銀行ホームページに専用コーナーを設け、概要、第一回から第九回までの決勝参加チームの作品全文および審査員講評等を紹介しています。また、第九回決勝大会の様様を収録した動画(三分程度)も配信しています。



【お問い合わせ・応募窓口】

日本銀行  
情報サービス局  
総務企画グループ  
〇三—三二七—二四〇五  
post.prd3@boj.or.jp

学生のための小論文・プレゼンテーションコンテスト



# 第10回 日銀グランプリ

～キャンパスからの提言～

日銀グランプリは、日本銀行が毎年開催している、学生の皆さんを対象とした金融分野の小論文・プレゼンテーションのコンテストです。多くの皆さんのご応募をお待ちしています！

## 課題「わが国の金融への提言」

◎応募資格：現在、大学(短大等を含む)に在籍の方(大学院生は除く)。2～4名1組のグループでご応募ください。

◎授賞内容：最優秀賞／1チーム(副賞：図書カード15万円)  
優秀賞／2チーム(副賞：図書カード3万円)  
特別賞／1チーム(副賞：図書カード3万円)

\*応募の詳細は裏面の応募要項および日本銀行ホームページをご覧ください。

締切  
9/30  
必着

主催  
日本銀行

<http://www.boj.or.jp/>

日本銀行ホームページには過去の決勝の様様(動画)、入賞論文や審査員の講評も掲載していますので、こちらもぜひご覧ください。



ニューヨーク市中心部、ウォール街の標識

## 設立100周年を迎えた 米国の中央銀行

米国の中央銀行（「連邦準備制度」）は、ワシントンD.C.にある連邦準備制度理事会（FRB）とニューヨーク連邦準備銀行など12の地区連銀で構成されており、昨年（2013年）末に100周年を迎えました。世界の金融の中心地として知られるニューヨーク市ウォール街にあるアメリカ金融博物館では、連邦準備制度設立100周年記念展を本年（2014年）10月1日まで開催しています。

意外に歴史が浅いと思われるかも知れませんが、実は、連邦準備制度は米国初の中央銀行ではありません。1791年と1816年の二度にわたり、中央銀行が設立されましたが、連邦政府の権限範囲を巡る党派対立（「連邦派」対「反連邦派」）もあって、いずれも短命に終わりました。

1907年、中央銀行不在のもとで生じた金融危機は、ウォール街の銀行家の尽力で収束したものの、経済に深い傷跡を残しました。この危機をきっかけに、金融システムの安定を担う中央銀行の必要性が改めて認識され、連邦準備制度が設立されました。「大きな政府」に懐疑的な世論もあり、その設立は難産でした。世間の目は<sup>はばか</sup>、設立に向けた会議は銀行家所有の島で<sup>ひみつり</sup>秘密裏に開催されたという逸話<sup>いつわ</sup>が残っています。

その後の金融危機では、ウォール街周辺に居を構えるニューヨーク連銀をはじめ連邦準備制度がその解決に重要な役割を果たしてきました。ニューヨークを訪れた際は、このような歴史を頭の片隅に置いてウォール街を散策してみてもいかがでしょうか。

近年、リーマン危機の発生を踏まえ、主に大規模金融機関を対象とした多くの厳格な規制が制定されてきており、今後も金融市場や金融機関の経営戦略への影響が予想されます。ニューヨークの金融市場の動向や、連邦準備制度とその誕生に関わったウォール街との関係の<sup>きすう</sup>帰趨について、当事務所は情報収集に努めています。

（日本銀行ニューヨーク事務所）

\*本コーナーは海外で働く日本銀行職員または日本銀行からの出向者が執筆しています。



連邦準備制度設立100周年記念展を開催中のアメリカ金融博物館



ウォール街周辺に居を構えるニューヨーク連銀



にちぎん